平成28年9月15日発行　ライセンスメイト　第1巻244号通巻570号（年4回 3月15日、6月15日、9月15日、12月15日発行）　昭和36年11月6日第三種郵便物認可

LICENSE MATE
ライセンスメイト

インターネット生放送番組

スタジオ日本 日曜討論

http://touron.l-mate.net

[毎週日曜日10:00～12:30]

目 次

祝辞…… 1
ごあいさつ…… 2
番組に出演して…… 6
日本人講座について…… 10
支える会の活動と実績… 16
放送のあゆみ…… 19
支える会のあゆみ…… 31
支える会役員・会則…… 33
番組の視聴方法…… 34

発行所 株式会社 日本教育開発

日本人の誇りを守る戦い

前衆議院議員　西川（にしかわ）　京子（きょうこ）

「日曜討論」と私との出会いは平成15年頃だったと思います。ちょうど郵政選挙の折でした。友人も知人もほとんどいない福岡10区（小倉北区、南区、門司区）に立候補して（させられて？）勝利した直後でした。それまでは熊本を中心に衆議院議員を二期、比例の立場で務めておりましたので、初めての小選挙区での選挙に勝たせていただいた高揚感の中におりました。

「日曜討論」出演のお誘いをいただいた時も、正直どういう番組かも分からず、どうしたものかと思いましたが、それまで政治活動の大きな部分を占めて闘ってきたテーマである「男女協同参画」についての討論ということでしたので、すぐにOKいたしました。当時のやる気満々の自分が思い出されます。

「男女協同参画」の行き過ぎたジェンダーや性教育問題、自虐教科書、家庭教育、家族観等々抱える問題は山とありました。そうした課題について小菅さんと熱く語ったことが思い出されます。当時この種の問題に一番無頓着と思われる中年男性でいらした小菅さんが、それどころかこれらの問題に大変深い認識をお持ちでいらっしゃったことが印象深く心に残り、また議論を実のあるものにしていただいたと記憶しております。

私は国会活動の中で一貫して、ある意図をもって日本人の誇りを傷つけるような主義主張と闘ってまいりました。

具体的には夫婦別姓法案、人権擁護法案、外国人地方参政権賦与法案（当時の呼称です）等の問題の多い法案は何とか阻止してまいりましたが、油断大敵です、アッという間にヘイト法が成立してしまいました。この経緯は私にもよく分かりません。

そして、慰安婦問題、南京問題等、これから日本として国際舞台でどう闘っていくか試されます。そのひとつ南京問題は、自民党の歴史議連事務局長として総括しました。英訳本も米国の上下両院議員宛に800冊送付いたしました。（「正論別冊」26にその経緯とさわりは掲載されています）

民間の有志の方々がここまで日本という国のために活動してこられたのは、日本人だから誇りを持って生きてゆきたいから、そして子供たちに、そういう日本を引き継いでもらいたいからと、そんな思いで頑張ってこられたことと存知ます。そのことに改めて敬意を表したいと思います。

私も今は民間人、さあ、ご一緒に頑張りましょう。

「語り手」の集団を作ろう

（専）ライセンスカレッジ理事長　小菅（こすげ） 亥三郎（いざぶろう）

平成15年10月5日に放送を開始した日曜討論も、来月、平成28年10月で満14年目に突入します。毎週日曜日の午前10時から12時半までの2時間半、1回も途切れることなく生放送を担ってこれましたのは、偏に無償で番組に出演して下さっている延べ3,500人以上に及ぶ皆様のおかげです。次に夥しい量のシナリオを無償で準備して下さるライターの皆様のお陰です。三番目はスタジオで私たちの番組を対応して下さる専門職の皆様のお陰です。家族を抱えながら毎週日曜日をこの番組のために捧げて下さっています。四番目は事務局の世話人の皆様のお陰です。本来の学校業務を担いながらの兼務業務とは言え、巷の放送局のプロに負けない気概と専門性が求められます。甘えは絶対許されません。そして五番目は財務を担当して下さっております「支える会」の特別法人会員を筆頭とする会員の皆様のお陰です。いわばこれらの任務に上記の皆様が「無私の精神」で取り組んで下さったからこそ満13年目を無事に締めくくることができたわけです。

しかし、露出する部分に限定すれば「語り手」の比重ほど大きいものはありません。視聴者に直接相対する役目だけに番組の死命を制するといっても過言ではありません。いかに入念にシナリオを準備しても、「語り手」によって生命（いのち）が吹き込まれなかったら、単なる作文になってしまいます。しかも全て無償で取り組んでいただかなければ、真実の声は曇ってしまうことがあります。

私たちは今、この「語り手」の集団を作ろうとしています。無償で出演するからこそ何物にも怯みません。世に問いたいこと、視聴者に訴えたいこと、理解してもらいたいこと、どうしても残しておきたいこと等があるから番組に出るのです。「私心なき身に恐るるものなし」の、気概で出演されるからこそ、聞く人の琴線に触れることができるのです。「国益を守り　真実を語り　真心を尽くすことに　休日なし」をモットーに「日本人の言語空間を日本人の手によって取り戻す」ために、愛国心と活力溢れる「語り手」の集団を建設します。それが「日本人講座」です。皆様のご参加をお待ちしています。そして皆様のご支援をお願いいたします。

閉ざされた言論空間を打破する「日曜討論」

九州大学大学院准教授　施（せ）　光恒（てるひさ）

政治にとって、情報は大切です。きちんとした情報がなければ、民主主義は成り立ちませんし、国の行く末を誤ることになります。

しかし戦後の日本の言論空間は、かならずしも十分な機能を果たしてきませんでした。評論家の江藤淳は、戦後日本の言論状況をかつて「閉ざされた言語空間」と表現しました。戦後、GHQが日本を占領した際に作られたプレスコードが、占領終了後も多くの日本人、特にマスコミ関係者の心理のなかに縛りとして残存し、そのため、十分な情報が伝えられていない状況を指してのことでした。

残念ながら、現在も、「閉ざされた言語空間」は残っています。「大東亜戦争」「英霊」などの言葉は、大手マスコミでは、ほとんど使われません。その一方、昨夏大きな話題となったいわゆる「従軍慰安婦」についての朝日の誤報（捏造）問題のように、一部左派的な言論など不正確な情報が無批判に流通してしまいやすい状況がいまだに残っています。

スタジオ日本『日曜討論』は、こうした現状に抗し、閉ざされた言論空間を打破しようとするある意味、「反体制的な」番組であります。戦後の閉ざされた枠組みを壊し、闊達かつ健全な情報空間の再興を目指すものであります。

大手スポンサーがついているわけでも、あるいは何らかの公的機関によって運営されているわけでもない当番組が、10年以上の長きにわたり、またゆるぎない信念に基づき運営されているのは大変素晴らしいことです。小菅先生、香月先生をはじめ番組を支える皆様のご尽力の賜物にほかなりません。

私見ですが、ここ数年、大手マスコミの報道は、一般的日本人の国民生活や、将来の日本人の安寧を守るための十分な機能をますます失いつつあるように危惧しています。「多文化共生」「地球市民」「グローバル化」「ボーダーレス化」「グローバル人材」といった空虚な言葉が、魔語（マジック・ワード）となり、国民一般の生活を蝕むような政策の出現を十分に吟味できない状況を作り出しているように感じております。

『日曜討論』は、日本の伝統に裏打ちされた、健全な常識に基づき、魔語を打ち砕き、歪んだ戦後の言論空間を是正していく役割を担っています。

今後も『日曜討論』が、激動の時代を乗り切るための確固とした道標の役割を、いっそう果たしていくことを祈念しております。

国家の縦軸に立脚した教育を

福岡教育連盟執行委員長　矢ヶ部（やかべ） 大輔（だいすけ）

「日曜討論」が14年目を迎えられるとのこと、まことにおめでとうございます。この番組が始まった経緯や、その後現在の形になるまでにいろいろな方々のご努力があったことなどをお聞きするにつけ、小菅先生はじめ、皆様の信念の強さや継続することの大切さを学ばせていただいています。私は教育界に身を置いていますのでその立場から今の教育の状況について若干考えを述べたいと思います。

さて、国の方では「教育再生」のスローガンのもと、様々な改革がまさに進行中です。この「教育再生」の意味するところは2つあると考えます。1つは「戦後教育の負の遺産」を克服し、誇りある日本の教育と取り戻すことです。過度の個人主義、家族・地域の崩壊、自国に誇りをもつことができない状況の克服のために道徳教育の教科化や教科書検定の改善などが行われており、この場合「教育再生」と「教育の正常化」はほぼ同義であると思います。領土問題の記述等についてはさきほど述べた改善も行われているところもありますが、国家の存在を希薄にしようとする勢力との闘いが今でもあるということに注意が必要です。

また、もう一つが少子高齢化、グローバル化、高度情報化の中で、これからの日本を担う子供たちをどう育てるかという難題の解決です。これには教育界のみならず、社会全体でのシステムの再構築が必要であり、同時に今後の人材育成についていろいろと議論されているところです。しかしながら、いかなる策であっても日本の歴史の「縦軸」に立脚したものでなければ絵に描いた餅となるでしょう。自らの国家の繁栄を願い、真の自立に向けた気概をまず育てたいものです。

第14次日華（台）親善友好慰霊訪問の旅に参加させていただいた折に、台湾で「日本精神」を身につけた方々が、「私は教育勅語で教育を受けた」ということを誇らしく語られていました。教壇に立つ者の使命として、国家の縦軸を見据えて、先人の精神的な豊かさを取り戻すとともに、正しい歴史観を育成していく必要性を痛感します。今後とも教育から国家の自立を支える基盤を作るべく尽力してまいりたいと思います。

日曜討論のこれまでの歩みに敬意を表するとともに、今後も我が国の再生のために正論を発信し続けていかれることを強く望んでいます。

元高等学校教諭
木村（きむら） 秀人（ひでと）

『日本英雄伝』の智の行方と陸軍省戦争経済研究班

終戦70年大河企画として『大日本帝国の復権　日本英雄伝』を放送し、80余名の先人たちの生きざまを通して明治の立ち上がりを辿りました。欧米に伍する近代国家がどのように出来上がり、先人たちの英知が人から人へと根付いていく様をまざまざと見ることができたのです。しかるに、明治の智が昭和になって失われ、我が国は突然無謀な戦争に突入した、というよく判らない宣伝を、メディアからも専門家たちからも、ずっと聞かされてきました。しかし、平成27年8月、林千勝著『日米開戦　陸軍の勝算』が出ました。

昭和14年9月陸軍省戦争経済研究班が作られ、そこに結集された百名以上の英知によって始められた研究が16年7月陸軍大臣、参謀総長に最終報告として出される。世界情勢（独、英、米、ソ連、蒋政権）と我が国の国力は冷静に把握されていた。ドイツの経済抗戦力（戦争継続力）は昭和16年がピークであり、世論はとにかく、我が国の中枢はドイツの勢いに乗ったわけではない。英米の国力は測定され、我が国が抵抗し得ざることは陸海軍共にわかっていた。その上でなお負けざる勝算が見つけられた。大東亜戦争の戦略は確かな根拠に基いて策定され、11月大本営政府連絡会議で「対米英蘭蒋戦争終末促進に関する腹案」として決定される。目指すはインド洋、英国の屈伏、インドの独立、蒋政権の補給路の遮断、蒋政権の屈伏で米国の対日戦の根拠を失くす。英、蘭の植民地を開放独立させ貿易を再開し経済を回す、即ち大東亜共栄圏。時間は、米国が全産業の軍需産業化を完成するまでの1年から1年半。米国は、対日戦争努力を煽らないよう、無暗に刺激しないで手を引かせる。即ち米国太平洋艦隊は迎え撃つ。米国から各地に出される物資は輸送船を沈めてその国力を奪う、等々。日露戦争とは比較にならぬ大戦略である。

子供のころからの長い長い疑問がやっと解けた。先人たちはちゃんと考えていたんだ。だから昭和天皇も裁可されたんだ。

戦後の虚構を問うことで、昭和20年8月15日の壁が壊れ、戦前に自分が繋がったが、開戦の経緯と戦争の展開が何かしらよくわからぬままだった。それが日本人の英知が突然欠如するという気持ちの悪さとして残っていた。今その開戦の経緯が判明した。これまで出された大東亜戦のほとんどの出版物が燃えるゴミとなるか、人はいかに虚構に翻弄されるかの資料となる他はない。すると新たな疑問が戦争全体に関して湧いてくる。では何故、真珠湾を奇襲したのか。何故、大東亜戦争が実際「太平洋の戦争」になったのか。この大戦略の根本に真っ向から挑むがごとき戦闘が何故なされたのか。米国の戦史家が今も首をひねる米国輸送船への潜水艦攻撃が何故行われなかったのか、等々と。この疑問に答える作業に取り組まねばなるまい。何故か。屈辱と沈黙を強いられた人たちの復権を果たすためである。昭和11年、我が国の来し方を振り返り、一千人の英雄たちを取り上げた『日本英雄伝』に、新たな英雄たちを刻むためである。明治維新以来我が国を取り巻く最も過酷な世界情勢の中で、国のために、私たちのために、『日本英雄伝』の智を引き継いで道を切り開こうとした先人たちの献身犠牲と忠誠武勇を国史の中に刻み、その徳を私たちが引き継ぐためである。歴史記述の変更ではない。私たちの「生死」に関わる魂の位置どころを定める取り組みである。

九州伝承遺産
ネットワーク特別顧問
原田（はらだ） 泰宏（やすひろ）

真実の放送に大きな勇気をもらった

テレビ、新聞などマスコミが、日本を貶めるためにただひたすらに自分の主義主張をあたかも世論だと騙って報道しているということに、気付かさせてくれたのが日曜討論です。

現在、日曜討論はインターネット放送ですが、私が聴き始めたころは、FMラジオによる生放送でした。ラジオ＝公共放送＝真実と信じていた私は、これまでニュース等で報じられてきた所謂従軍慰安婦問題、日本の侵略戦争と断定した大東亜戦争、政府首脳による靖国神社参拝問題などに対し、真反対の意見が飛び出してくるのを聞いて、こんなことを放送していいのだろうかと漠然たる恐怖感を覚えましたが、よくぞここまで言ってくれたとの痛快感に浸り、自虐史観に洗脳されず、近隣諸国の脅しにも負けない一般市民によって真実の放送に大きな勇気をいただきました。

現在日曜討論はインターネットによる生放送となり、視聴範囲が世界全体に広がりました。また、過去のラジオ放送も含めてすべて記録に残され、インターネットで視聴することが出来るようになりました。これは、一つの本当の世論を常時顕在化させることによって、捏造・偏向するマスコミ世論報道に対抗する手段にもなると言えます。

初放送以来14年に亘り1週も欠かさず毎日曜日に日曜討論を発信放送することは並大抵の努力ではできません。これは、歴史的偉業だと思います。
私は縁あって日曜討論に出演させていただいております。今後も誇りある我が日本の為、多くの良識ある市民の方々の幅広いご参加を引き継ぎながら、末永く続くことを願っております。

国益を守り 真実を語り 誠心を尽くすことに 休日なし

番組に出演して

早いもので『日曜討論』も間もなく 14 年目（平成 28 年 10 月）を迎えようとしております。そこで今回は、放送開始 13 周年を記念して今まで出演にご協力して下さいました皆様のご感想やご意見をご紹介させていただきました。

「スタジオ日本 日曜討論」は毎週日曜日午前 10 時から 12 時 30 分までのインターネット生放送番組として配信しています。番組の URL は、http://tuoron.l-mate.net です。または、インターネットで「スタジオ日本　日曜討論」と検索しますとユーチューブのサイトよりご覧いただけます。

※肩書きは番組出演時のものを記載させていただきました。

「憲法改正」そして「教育の建て直し」こそ急務

㈱関家具　代表取締役社長
関文彦（せきふみひこ）さん

敗戦後、GHQにより日本国占領政策基本法でしかない政策集を日本国憲法とされてしまった。独立後当然改正すべき最優先重要事である憲法を70年間一字一句たりとも改正していません。全く戦後日本国民と政治家の非常識、怠慢であります。

同じ敗戦国のドイツは敗戦後60回余にわたりドイツ国民の安全と国家存立の為に改正しています。6年余にわたる占領が終わり解放独立後もその恥ずべき占領政策集である日本国憲法を引き継ぎ左に偏向した日教組による誤った教育を受けて今日に至っております。

我々日本人は我が日本国が本来持っていた素晴らしい世界に類を見ない平和国家としての伝統文化、及び歴史を否定し、不法、違法な東京裁判に基ずく自虐史観を恥とも思わず教えこみ、日本国民の心の中に浸み込ませてしまったのです。本当に罪悪です。その結果は日本国民として一番大切な日本国に対する自信と誇りを失くし、国家の最小単位である家族の絆が断ち切られ家族制度が崩壊の危機にあります、これはひいては国家存亡の危機であります。一日も早く日本人による日本国の為の新たな日本国憲法を制定すべきであります。そして先ずこの日本国民の精神的崩壊の危機を救う為に「教育の建て直し」を急がねばなりません。

現在中国が持つ脅威的兵器原子核爆弾500発をはじめ、自衛隊の10倍以上の陸軍、空軍、膨張する空母まで持つ海軍での我が国固有の領土尖閣諸島強奪の脅威と我が国を貶める、捏造した歴史認識を基に我が国に対して仕掛けている歴史戦に打ち勝つ為には教育から立て直した日本国民の叡智と努力によってのみ、平和が維持できるのです。

日曜討論こそ真実の報道番組

㈱松俵建設　会長
松俵義博（まつだわらよしひろ）さん

このスタジオ日本日曜討論番組は、自分が出演した時の放送を、友人や知人に視聴してもらうことが出来てとてもうれしいです。前回出演したときも、台湾の人達が電話で連絡をとりあって一部屋に集まって、視聴してくださいました。番組を見た台湾の人達は、自分たちの思っていることや、番組に対する意見をFAXで伝えてくださいました。本当にありがたいです。

日曜討論番組は本当のことが話せる番組ですので、聞いている人も今まで知らなかったことが分かってびっくりしています。スタジオ日本日曜討論こそ正しい真実の報道番組です。

私は出演後に送ってくださるCDをいつも車の中で聞いています。日曜討論は自分の思っている意見を堂々と話すことが出来ますし、また他の皆さんのご意見も非常に参考になりますので、何度聞いても飽きません。案内役の中実柚菜さんの進行も落ち着いた口調で分かりやすく聞きやすいです。

これからも、この日曜討論番組が末永く続きますよう応援していきます。どうぞ皆さん、いっしょに頑張っていきましょう。

『カエルの楽園』にさせている売国勢力と国防無関心選挙民!!

元・会社員、元・公益法人職員
吉田重治(よしだしげはる)さん

中共[「中国」は日本＝東夷の不適切対語]は捏造の「南京大虐殺」等で日本の過去の「虚構の侵略」を楯にした歴史戦と強大な軍事力によるチベット、新疆ウィグル、東・南支那海、第1・第2列島線、太平洋等への侵略の本性を剥出した現在進行形の侵略国である。中共と結束のロシア(露国)も北方領土はもとよりウクライナ東部・クリミア半島を掠奪した現在進行形の侵略国である。英国のEU離脱はNATO軍を弱体化させ、露国のバルト3国への再侵略を誘発する。北朝鮮は米欧の混乱に乗じ、核兵器・ミサイル開発を驀進させる。

東南アジア・大洋州地域では親中のフィリピン大統領や親中派豪州首相が出現した。故レーガン元米大統領の如き傑出の指導者不在の米国弱体化は中共の東・南支那海、第1・第2列島線、太平洋等で侵略行動を激化・激増させる。日本の安全保障環境が最悪化傾向にあり乍、国政選挙の度に安全保障への選挙民の関心度は低く、慄然とする。

この根源は何か。中共の軍事力強大化の元凶は誰か。政財界や国民を捏造・歪曲の歴史で洗脳し、「日中共同声明」や「日中平和友好条約」の似非平和友好へ誤導し、日本の貴重な資金や技術を貢がせて軍事強大国中共を出現させたのは売国政党、売国マスコミ[NHK、朝日新聞、共同通信、岩波等]等の売国勢力である。岸元総理の中華民国(台湾)重視方針・政策を昭和47年の「日中共同声明」で廃棄した。20代の小生は中共の軍事力強大化と日本の将来の禍根を予感した。小生の予感が残念乍的中した。中共の軍事力強大化と侵略行動の淵源は利権売国政治屋故田中元総理の大罪と現在も小生は思う。故鬼塚英昭氏最後の著書『田中角栄こそ対中売国者である』に長年の我が意を見出した。対中売国財界人の元凶は故稲山嘉寛氏、故斎藤英四郎氏[共に新日鐵社長・会長、経団連会長]で『日本は中国を侵略し、韓国を植民地にして甚大な迷惑を掛けた。その償いに中国の上海宝山製鉄所や韓国の浦項製鉄建設に協力する』の日本罪悪・責贖罪史観による協力は「賠償・朝貢」にされ、中共を利するのみと小生は危惧し、当該史観の虚構と国益・社益の喪失を進言したが上海宝山製鉄所建設協力へのめり込み、中共の鉄鋼業大躍進と軍事力を強大化させ、日本や東南アジア諸国等の安全保障を危殆に瀕させた。小生の進言が残念乍的中した。当該利敵売国行為はレーニンの『資本主義者は自分の首を絞めるロープを売りに来る』の愚行で大罪と現在も思う。

旧民主党政権仙石元官房長官の『日本の中国への属国化は今に始まったことではない(日本の中国への属国化は当然の意)。自衛隊は暴力装置』や共産党藤野前政策委員長の『防衛費は人殺し予算(自衛隊は殺人組織)』は売国勢力の本性・本質・目的を吐露した。売国勢力の秘匿目的は中共の日本侵略・占領を渇仰し、先導して中共の属国日本人民共和国独裁国家樹立である。日本人民共和国樹立阻害の自由民主国家日本の国防力弱体化・無力化の手段に「戦争抑止法案」を「戦争法案」と嘘喧伝し、中共・露国・北朝鮮の核兵器の脅威を日本国民へ警告せず目を逸らさせて国防無関心選挙民の洗脳・煽動で「日本の核武装罪悪症候群」を全国に蔓延させている。

売国勢力はゾルゲ事件の売国奴尾崎秀実の如く共産主義独裁国家を心の祖国と崇め、「毒牙」を隠した工作員的売国奴で「スパイ防止法」が緊要な所以である。国防力強化を軽視した国家の滅亡は歴史が示す処である。況して悪辣・暴虐な核保有国中共・露国・北朝鮮に包囲された日本はである。3回目の核爆弾被爆防禦は戦史や国際力学無視の空理空論・空想的平和妄信症候群の「非核3原則」や「核廃絶宣言」では保障不可能であり、核ミサイル・迎撃兵器・無人兵器等の開発配備の現実直視策こそが日本国家国民の生存を保障可能にする。

国家存亡を制す国防に無関心な選挙民生起の根源はGHQ製憲法[日本占領管理要綱]の前文『日本国民は平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼してわれらの安全と生存を保持しようと決意した』と第9条との「日本国家無力化・日本国民骨抜化」の洗脳工作である。売国勢力と国防無関心選挙民はGHQ製憲法の「護憲」を楯に日本生存の国防力強化[核武装等]を潰す。国防無関心選挙民の「国防無関心症候群」治療特効薬は前文と第9条の改正に尽きるが特効薬服用法が至難の技である。然し国防無関心選挙民を【国防は国家存続と最大・最高の国益・国民福祉である】への覚醒こそが日本国家・国民の生存と独立不羈を守護する。前文と第9条の改正を実現しなければ我が国は百田尚樹氏渾身の力作『カエルの楽園』と同じ運命を辿る!!

日々これ新たなり 日本人講座

会社員
津留毅（つるたけし）さん

「私たちの言語空間は、大手マスメディア、マスコミを中心とした反日報道によって制圧されているのではないのか？」、また「昭和20年8月15日の天皇陛下のご聖断によって大東亜戦争は終戦を迎えたはずなのに、ますますその戦いの炎は燃え上がり、むしろ戦争は継続しているのではないか？」という二つの大きな疑問が沸き起こり、平成25年10月8日に小菅代表世話人の許へ相談に行きました。思い返せば、そのことが今日の日曜討論番組の日本人講座開設の契機となりました。その日から何度も小菅代表世話人と会合を重ねるうちに、その大きな疑問は確信へと変わり、日本人講座開設への推進力となりました。

アメリカの占領政策、ウォー・ギルト・インフォメーション・プログラム（戦争犯罪宣伝計画）は、残念なことに今でも「閉ざされた言語空間」の中に多くの日本人を閉じ込めています。この閉ざされた言語空間をこじ開け、日本人の言語空間を取り戻し、現在の日本のあり方を問い直していくことがこの講座の目的なのです。

こういうと、大変な戦いをしなければならないように思われ、プレッシャーを感じる方もいらっしゃるかも知れませんが、どうぞご安心下さい。

このことは、古事記神話の国づくりのはじめから、私たちのご先祖がなさってこられたことなのです。古事記の「大国主の国譲り」の段で、高御産巣日神（たかみむすびのかみ）が、天照大神の命によって八百万の神々を河原に集めて仰るには、「葦原中国は我が御子のしらす国と言依さしたまへりし国なり」とあり、また「大国主に問いて言りたまひしく　天照大御神高木神の命もとて問いに使はせり　汝が　うしはける葦原の中国は我が御子のしらす国ぞと言依さしたまひき」ともあります。しらす国とは、知国であり、現代風に言えば情報共有社会であり、国民と天皇陛下は一体であり、同じ価値観を共有し、同じ目標のためにみんなで力をあわせる家族共同体の国のことで、究極の民主主義の国そのものです。それだけ日本の国民は、神武天皇の建国の肇より皇祖・天照大神から託された宝物（オオミタカラ）として大事にされてきたのです。閉ざされた言語空間などあってはならない国なのです。これに対して、権力者が民衆や領土を都合のいいように私有する国をうしはける国といって戒めています。我が国は、建国の肇からしらす国として出発したのです。

明治維新の「維新」を訓読みすると「これ新たなり」と読みます。明治維新と言っても、神武建国の時からすでにあったものを時代に合わせて言い方を刷新しただけなのです。

まさに、日本人講座も日々これ新たなりの精神で頑張ってまいりますので、皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

正邪を見極めること

元団体職員
奈田明憲（なだあきのり）さん

安全保障関連法案成立前後の頃と思うが、テレビの討論会でこの前の東京都知事選挙に立候補されていた方が出演され、頻りに同法案に対して反対意見を述べられているのを観た。

その中で最も印象に残ったことが、同法案賛成派の方々に「何処の国が攻めて来るのですか」と何度も問い掛けられていたことだった。最近も中国の公船が尖閣諸島沖の領海に繰り返し侵入しているが、東シナ海の緊張状態は1968年に石油資源が埋蔵されている可能性が指摘されて以来続いて来た。そして中国は国内では公然と沖縄を中国領と主張していると聞く。

先の討論会で例えば東シナ海の問題を歴史を追って説明し、中国の脅威を指摘し、最終的には武力衝突の可能性もあると何故安保法案賛成派の方々はもっと強く主張出来ないのかと思った次第だ。敏腕ジャーナリストだった法案反対の立候補者には大変失礼な話に普通はなるが。仮にT氏とするが、氏のような方は、わが国のマスコミに登場する所謂有識者に多い。10年以上前はよく見ていた深夜から早朝までの討論番組にもその様な方が出演されていた。ご自分の論に疑問を呈せられ、それについての知識が無いか、答えることでご自分の主張が間違いになりそうな時に、巧みに議論をはぐらかせたり、違う問題に掏り替えたり、或いは質問に答えないと言う態度を取られる。後に著書を何冊も出版され次々とベストセラーになった。

T氏にしてもこのベストセラー作家ともなった学者にしても何故、認める人々が多数存在するのかが私には不思議だ。どうであろうか、こういう方々は、現実をありのままに見る力が無いのか、固定観念からもう逃れられなくなっているのか、目的は別にあるのか（金銭や虚しい肩書等）、将又、他国の協力者に成り下がっているのかと考えるしか無さそうに思う。

『南洲翁遺訓』は、戊辰の役の際、庄内藩降伏の折の寛大な処分を指示した西郷吉之助の下に親書を届けさせた酒井公の臣下が、西郷の言葉を筆記し、西郷の賊名が除かれた明治22年に酒井家から出版されたものである。その中に「文明とは道義のあまねく行われるのを賞讃した言葉である。宮室の荘厳、衣服の美麗、外観の浮華を言うのではない。自分はかつてある人と議論して西洋は野蛮だと言ったら、いや西洋こそ文明だとその人は反論したが、もし西洋が真に文明ならば未開の国に対しては慈愛を本として、よくよく説き諭して開明に導くのが当然であるのに、実はその逆で、未開の国に対するほど残忍な事（武力による植民地政策）を行って、おのれの利益を取る。これを野蛮と言わずして何と言おうか」とある。西郷には西洋文明の見せ掛けに惑わされぬ信念と眼識があったと言わざるを得ない。又、有名な「幾たびか辛酸を歴て志始めて堅し　丈夫は玉砕甎全を愧ず　我家の遺事　人知るやいなや　児孫のために美田を買わず。」と言う詩がある。甎全とは瓦全のことで、『北斉書』の〝元景安伝〟の中に「大丈夫は寧ろ玉砕す可きも、瓦全する能わず」とあり、何もしないでいたずらに身の安全を保つことである。

児や孫又は自分の為にお金や虚名という美田を買い、とうとう国家社会の為に何の為すことも無く甎（かわら）として生き続けるか、或いは玉となるか。

最近のマスコミの報道について

会社員
平尾文洋（ひらおふみひろ）さん

昨年の集団的自衛権の限定的行使を可能とする安全保障関連法案について、NHKをはじめマスコミの報道はほとんどが批判的でした。公共の報道機関であるテレビ局は政治的には中立でなければならないはずですが、反対一色の報道に対して強い怒りを覚えます。集団的自衛権だけでなく、憲法改正の議論についても同様ですが、彼らの言い分は決まっていつも「戦争が出来る国になる」などですが、国際社会が今どういう状態にあるかという事を考えれば彼らの言い分が通用しない事は明らかです。私は彼らに問いたい。「もし日本が中国に攻められたらどうやって国を守るのですか。日本が中国の侵略により滅びたらあなた方はどうやって責任を取るのですか。」と。政府には国民の生命と財産を守る責任があります。その責任を果たす為には考えられる全ての対策を取らねばなりません。従って安倍政権の目指す方向は正しいと思いますが、反対方向に世論を誘導しようとするマスコミに対して私たちは強い抗議の声を挙げるべきです。

台湾を学ぶことで世界が見える

会社員
高橋幸久（たかはしゆきひさ）さん

世界一の親日国である台湾のことを日本人はあまり知りません。戦後の言論空間が歪んでいるために、無視されているようです。

大東亜戦争で散華された台湾人は三万三千余柱であること、現在台湾と日本は国交がないこと、台湾では日本精神が尊敬されていること、台湾は約50年間同じ日本であったこと、中国共産党により戦後約40年間戒厳令が敷かれたこと等、このような重要なことを多くの中年以下の日本人は知らないと思います。

戦前の台湾での数々の美談は封殺され、戦後の日本台湾の友好、例えば東日本大震災での寄付金額が世界一であったことなども、あまり報道されません。さて、戦後、GHQによる数々の日本弱体化の方策がとられ、戦前日本との精神的な分断が行われました。そして、日本人は自信と誇りを失ってしまいました。今では反日国家や反日国内勢力の好き放題に言われ、日本は貶められています。これを改めるには、歴史を正しく認識することが肝要ですが、その歴史の縮図が台湾にあります。台湾を学ぶことで世界が見えてきます。台湾の歴史を学ぶ上で、その象徴は、日華（台）親善友好慰霊訪問団が行う英霊顕彰です。英霊の御蔭で、両国は歴史を紡ぎ、信頼を深めることができます。日本は英霊顕彰を教育に取り入れて教育現場の再生を図るべきです。日華（台）親善友好慰霊訪問団の活動は英霊顕彰だけです。だからこそ真心の絆ができています。私は未だ台湾現地への訪問は出来ておりませんが、壮行会や報告会に参加するだけでも、この活動の目的に十分合致していると団長に言葉を頂きました。多くの方々の参加をお待ちしております。平成28年5月に蔡英文総統が誕生しました。台湾は大きく変化します。これからも英霊のご加護の下で、台湾と日本の生命の絆が深まるよう、祈念します。

日本人講座について

1.「日本人講座」の開設の経緯（日本人講座の歴史）

平成25年10月8日の津留毅氏による小菅代表世話人への相談が契機となって誕生したのが日本人講座である。津留氏は、①「私たちの言語空間は、大手マスメディア、マスコミを中心とした反日報道によって制圧されているのではないか？」、そして②「昭和20年8月15日の天皇陛下のご聖断によって大東亜戦争は終戦を迎えたはずなのに、ますますその戦いの炎は燃え上がり、むしろ戦争は継続しているのではないか？」という二つの大きな疑問を抱いていた。それから何度も小菅代表世話人と会合を重ねるうちに、その大きな疑問は確信へと変わり、その確信は形を変えて勉強会開設の提案となった。翌26年1月より事務局を交え、提案の実現に向けて協議を重ねた結果、4月に日本人講座開設のはこびとなった。

今日のマスメディア、マスコミの世界は「戦後秩序の遵法者」として、日本や日本人の悪い面のみを探し求め、反日的、自虐的視座に基づく報道に終始している。それは大東亜戦争後の占領軍によるウォー・ギルト・インフォーメーション・プログラムの残滓であり、先祖から受け継いだわが国、日本の国体、縦の糸の分断工作に他ならない。そこで、講座(勉強会)の主眼を①私たち日本人が見失った「日本」を再発掘すること、また今を生きる日本人の務めとして、②過去の日本人を甦らせ、その甦った日本人を通して、現在の日本人のあり方を問い直して行くという二点に置くこととした。それ故、講座の名称を「日本人講座」とし、数名の日曜討論番組を支える会の世話人にお声掛けをし、平成26年4月に開講した。

H25.10はH25.3～6の実行委員会(台湾特別講演会)が引き金、1人の発起と1人の伴走
H26.1から事務局が正式稼動して計3人
H26.4から開講で2人加わり5人で出発
H26.4に「基本書」初版編集
H26.5からひまわり学生運動6回シリーズ制作
H26.8に産經新聞社西部本部と語る会を実施
H27.3に特別講演会・新会員歓迎会運営を実施
H27.6から香月副代表世話人を継承し「大日本帝國の復権」を年度通して担っていくことに
※香月副代表世話人の降板に対応できる部隊として登場することができた
H27.8の定期総会運営の実行部隊に飛躍
H28.7に「基本書」改訂

●ご支援ありがとうございます。

誇りある国づくりへ
国民の力を！
日本会議経済人同志会
☎(03)3476-5611
〒153－0042
東京都目黒区青葉台3-10-1
青葉台上毛ビル601

福岡県知事認可　専修学校
(専)ライセンスカレッジ
☎(092)721-0100
〒810-0001
福岡市中央区天神1-3-38
天神121ビル13階

内　科
(医)香月内科医院
☎(0949)22-3520
〒822-0007
福岡県直方市下境1147-2

2. 「日本人講座」とは

(1)「日本人講座」の基本的考え方

「日本人講座」を検討した理由は“我々自身が日本人を知らない”ことである。“日本人とは？”との質問に誰も答えられない。わが国・日本の国体は簡潔にまとめると「正直であること」「清潔であること」「自己完結性があること」である。本来、日本人は人類の問題を解ける宝であるが、それが封印されている。そういう意味から“日本人の掘り起こし”が必要である。スタジオ日本日曜討論番組もプロパガンダに反論しているが、それは日本人を語っているものであり、整合性がある。現在のメディアは日本人の悪い面のみを探し求め、本来の日本人の掘り起こしを行わない。故に、私たちは日本人を甦らせ、その日本人を通して、現在の日本人のあり方を問い直して行く。

(2)「日本人講座」の基本姿勢

今日のマスメディア、マスコミの世界の問題点として、「戦後秩序の遵法者」であることが挙げられているが、インターネットの世界（ネット右翼と称されるが）ではその部分に風穴が開けられた。その理由は新聞等と違い、校閲のない世界であるため、そこには“本音”が溢れている。そういう意味ではインターネット放送の「スタジオ日本 日曜討論番組」の存在意義は図り知れないほど大きい。

しかし、現在は数人のリーダーがいるだけで、何年か後には難しくなること必定である。その為にも早く新しい人材を育成する必要がある。かつて日本会議でも若い世代（学生 = 日本協議会）に出演してもらっていたが、彼らが卒業し、教員になったその後は出演しなくなった経緯がある。そういう意味で人材育成としての「日本人講座」を検討した。つまり、「日本人講座」は「スタジオ日本日曜討論番組」に出演していただき、言論戦の領域で行動を起こしてもらうための準備講座である。まさにこの講座は「日曜番組」を担っていただく伴奏者育成のための「師範講座」である。

(3)「日本人講座」の方向性

現在は日本人の発掘ができていない。「日本人講座」の意義は今を生きる日本人の務めとして、過去の日本人を甦らせ、その甦った日本人を通して様々な事象を見るとどうなるかという視座を持ってもらうことである。それに現在のわが国には日本人の DNA を出す場所がない。「日本人講座」はその機会を与える場である。言って聞かせて（インターネット、仮想空間）見せてやる（我々が実社会に対する行動として）ことで日本人が芽吹く。つまり講座に参加してくれる人が、出演という形で行動を起こす。そういう講座であるべきで、日本人を掘り起こす『原日本人講座』でないといけない。

「日本人講座」は「日曜討論番組」の延長（放送されない討論会）ではなく、番組への出演者を発掘し育てていく講座であり、同時にリーダーとしての資質を高める『師範講座』であることを明確にし、現在の賛同者は“伴走者”となる人と考える。

●ご支援ありがとうございます。

家族の強化・家庭の復活
教育研究会未来
☎(075)257-1805
〒604-8136
京都市中京区梅忠町三条通烏丸東入ル
中井ビル2階

総合建設業
松俵建設㈱
☎(0948)42-1033
〒820-0205
福岡県嘉麻市岩崎1554-10

家具製造・販売
㈱関家具
☎(0944)88-3515
〒831－0033
福岡県大川市幡保98-7

3.「基本書」と「定例会（勉強会）」

終戦70年を迎えて、私たちの足元は確かだろうか。今もなお戦前の大いなる遺産によって、日本はその名を世界に揺るぎないものにしているにもかかわらず、世界が日本に抱く評価が戦前によって決まっているにもかかわらず、私たちは明治以来の日本を堂々と語ろうとはしない。

わが国は、五箇条の御誓文（明治維新）から70年で南京攻略までのぼりつめたが、それを支えたのは神武建国の精神と国体を発揚した明治憲法だったのではないか。そして人づくりは教育勅語が、国づくりは軍人勅諭が補ってきた。それにひきかえ終戦70年を見れば、ゆすられ、たかられ、いわれなき汚名を着せられ、世界の笑いものにさえされている。まさに五箇条の御誓文、教育勅語、軍人勅諭なき70年を辿ってきたが故になるべくしてなったといえる。

そのため、日本人講座では、戦後の自虐史観に侵されていない日本人の生の声を聞き、歴史への思いと日本人の力であることを認識し、明日への展望を切り開いていくために「基本書」を設けた。

4.「基本書」の編集について

この基本書は、平成12年10月28日をもって制作を開始した。九州不動産専門学院の月曜朝礼における学習資料に供す為だった。今日私たちが手にするような仕様がその時一気に完成された訳ではない。

平成25年10月8日の日本人講座発起により、「大日本帝國憲法」を加えた形で制作されたのが初版だった。他の資料が全て正體字、正仮名遣いを用い、改めて入力し、登録したのに対して「大日本帝國憲法」だけはインターネット情報を活用した。その初版は平成26年4月19日に発会された月例会にて手渡された。その後、1年9ヶ月を掛けて「大日本帝國憲法」にも同様の作業を施し、「皇室典範」と共に復元編集したのが改定一刷（1冊）で、平成28年1月16日の月例会で手渡された。そして、一部校閲作業に6ヶ月要した後、平成28年7月9日の月例会で手渡されたのが改定二刷（参考資料込みで2冊）だった。

以上の沿革からもお判りのように、この基本書制作の目的は月例会の学習資料のためが第一である。また月例会は放送に定期的にコメンテーターとして出演して下さる日本人講座の会員のためである。

わたしたちは、日本人の言語空間を取り戻すべく、「成就するまで継続する」をモットーに、平成15年10月5日にスタジオ日本日曜討論番組を起ち上げたが、後年設立された「支える会」とともに、「語り手」の拡大強化ほど今日的に枢要な課題はない。

そのために、この基本書は今後も改訂を重ね成長し続けていく。

《基本書を取り扱うにあたっては、善管義務前提の上で次のことを守ること。》

一　基本書の無断複写は禁止する。
二　基本書は貸与品ゆえ販売を禁止する。
三　日本人講座に一年以上参加なき場合は基本書は事務局あて返却する。

●ご支援ありがとうございます。

九州不動産専門学院グループ
同窓会
九 栄 会
☎(092)714-4341
〒810-0001
福岡市中央区天神1-3-38
天神121ビル13階

不動産取引
光志興産㈲
☎(0948)42-6660
〒820-0203
福岡県嘉麻市平607-1

賃貸管理・住宅販売・ビル事業企画
㈱リライエステート
☎(092)282-5115
〒812−0018
福岡市博多区住吉1-6-9

(1)「基本書」

《基本書》

五箇條ノ御誓文
陸海軍人ニ賜ハリタル敕諭
皇室典範
大日本帝國憲法
教育ニ關スル敕語
戰陣訓
米英ニ對スル宣戰ノ詔書
米英兩國トノ開戰ニ際シ陸海軍人ニ賜ハリタル敕語
大東亞戰争終結ノ詔書
大東亞戰争終戰ニ際シ陸海軍人ニ賜ハリタル敕語

《参考資料》

歴代天皇諡号
島津いろは歌
孫子

《資料》

皇室典範義解
大日本帝國憲法義解
國體の本義

(2)「定例会（勉強会）」の形式

毎月１回（基本的には第１または第２土曜日）
時間は午後 18 時～ 20 時迄
内容は①基本書の素読（内容解説含む）
②事象考証
③「日曜討論番組」放送の指標
④検討課題　他
⑤懇親会（定例会終了後）
※参加は任意／初参加者は無料、２回目以降は会費 2,000 円

(3) スタジオ日本日曜討論番組の企画・制作

a）企画・制作・出演

番組企画は講座生が立案し、番組ごとに責任者（担当者）を決め、事務局と協議し、番組内容・構成・フリップ・資料等を作成

出演者は幹事（出演依頼担当）が各講座生に連絡して決定

出演者ならびにスタジオへ関係資料を事務局より送付

※①日本人講座への参加は日曜討論番組への出演

②スタジオ日本日曜討論番組を支える会の正会員であること　が前提のため放送はコメンテーター（進行）、ゲスト（出演者）で構成

スタジオに 9 時 30 分までに入り、事前打ち合わせを実施

番組冒頭に自己紹介、産經記事の紹介（生放送であることの証明）を行い、30 分パートで番組を進行

（コメンテーターの手引きあり）

b）番組修了後は反省会を実施

※放送中のお茶はスタジオで準備、放送後の反省会は指定店で（食券事務局準備）

●ご支援ありがとうございます。

福岡の賃貸物件、賃貸管理
㈱ジャスト・イン・タイム
☎(092)737-0703
〒810-0022
福岡市中央区薬院2-3-10
ディアマンテ薬院(地下鉄薬院大通り駅2階)

賃貸物件・マンション
アミティエカンパニー㈲
☎(092)451-8243
〒812－0013
福岡市博多区博多駅東2-8-22
よしみビル３階

鉄鋼材、一般建築資材
㈱中部鋼材
☎(098)938-1318
〒904-0012
沖縄県沖縄市室川2-6-7

5.「日本人講座」の活動他

(1) 定例会（勉強会）は 月 1 回開催 (土曜日)
※半年後の日程まで決定する

(2) 日曜討論番組の企画・制作・出演　※年間計画を決定する

(3) 特別講演会・新会員歓迎会
※毎年 3 月中旬実施

(4) 定期総会・記念講演会
※毎年 8 月下旬実施

(5) 産經新聞社西部本部と語る会
※毎年 6 月下旬実施

(6) 日本人講座の会員は原則として、スタジオ日本日曜討論番組を支える会の会員（正会員以上）

(7) 定例会 (勉強会) で配付される資料代は基本的に実費負担が原則

(8) 会員は名刺を制作し会員拡大に活用（1 セット 100 枚 2,000 円）

日本人講座「基本書」

＊五箇條ノ御誓文　明治元年三月十四日　布告
＊陸海軍人ニ賜ハリタル敕諭　明治十五年一月四日　渙発
☆皇室典範〔＊上諭／☆條章〕　明治二十二年二月十一日　発布
◆大日本帝國憲法　明治二十二年二月十一日　発布
〔＊告文／＊憲法発布敕語／＊上諭／◆條章〕
＊教育ニ關スル敕語　明治二十三年十月三十日　渙発
◆戰陣訓〔東條英機著〕　昭和十六年一月八日　示達
☆米英ニ對スル宣戰ノ詔書　昭和十六年十二月八日　渙発
☆米英兩國トノ開戰ニ際シ陸海軍人ニ賜ハリタル敕語　昭和十六年十二月八日　渙発
☆大東亞戰爭終結ノ詔書　昭和二十年八月十四日　渙発
☆大東亞戰爭終戰ニ際シ陸海軍人ニ賜ハリタル敕語　昭和二十年八月十七日　渙発

【参考資料】
＊歴代天皇諡号〔九州不動産専門学院篇〕　平成十七年五月一日　作成
＊島津いろは歌〔島津忠良(日新公)謹詠〕　天文十四年　作成
◆孫子〔九州不動産専門学院篇〕　平成十八年三月一日　作成

【会員心得】
＊暗唱課題　☆朗読課題　◆熟読課題（引用できるまで）

国益を守り 真実を語り 誠心を尽くすことに 休日なし
支える会の活動と実績

●「日曜討論」番組の誕生

平成15年8月30日に福岡市南区高宮の女性センターアミカスで「男女共同参画社会を考える」（日本会議福岡時局部会主催）という講演会が開かれました。講師の伊藤哲夫氏（日本政策研究センター所長）は「今、福岡市が制定に向けて進めている『男女共同参画基本条例』は恐るべき『白い革命』にほかならない」と喝破し、この条例の包蔵する危険性を訴えました。

この会場に聴衆として参加していた福岡コミュニティ放送㈱の渕上高当氏は、その呼びかけに応じ番組を起ち上げました。それが「FM-MiMi日曜討論」です。

FM討論会 大反響

性教育、子育て…テーマいろいろ

早良区、福岡コミュニティ放送

空中公民館目指す

シリーズ「男女共同参画を考える」（コメンテーター：小菅亥三郎、メインゲスト：山口敏昭氏）として、平成15年10月5日から毎日曜日6回に亘って放送されましたが、西日本新聞にも掲載され、その反響は数千件のパブリックコメントが福岡市に寄せられるひとつの契機となりました。

●「日曜討論番組を支える会」（「支える会」）の設立

反日的マスメディアが幅をきかすわが国にあって、国民の立場から情報発信を行うことは画期的なことでした。平成17年8月には番組のスポンサーとして「支える会」を設立し、わが国の国益を守る立場から情報発信する橋頭保として、爾来12年間、放送主体の変更を伴いながらも、毎日曜日に欠かすことなく放送を継続してまいりました。

福岡市長 高島宗一郎くん いいかげん 国を売るのはおやめなさい。

福岡市長 高島宗一郎くん いいかげん 国を売るのはおやめなさい。

意見広告 毎週日曜日生放送／10:00～12:30 http://touron.l-mate.net 8月12日(日)放送 スタジオ日本 日曜討論

平成24年夏の福岡市中国公務員4千人採用問題では、「支える会」として産經新聞に意見広告を掲載し、特集番組を放送して広範な市民の支持を得て、計画の撤回を勝ち取ることができました。

●閉ざされた言語空間を開放する「番組図書館」

「日曜討論」番組は平成22年11月にはインターネット（ユーストリーム）による放送を開始。また平成26年10月からはアーカイブ（ユーチューブ）での視聴も可能となり、世界中どこからでも、いつでも番組を視聴することができるようになりました。真正保守の立場から重要な資料、真実の情報を視聴できるメディアライブラリー「番組図書館」として注目を集めています。戦後閉ざされて久しい言語空間を国民の側に奪還するため、「誇りある国づくり運動」のメディア部門として、ますます「日曜討論」番組に期待が寄せられています。

第9回

『スタジオ日本 日曜討論番組を支える会』

定期総会・記念講演会・懇親会

平成27年8月23日（日）「スタジオ日本日曜討論番組を支える会」の第9回定期総会・記念講演会・懇親会が福岡市中央区のテルラホールで開催され、93名の特別会員（法人・個人）や正会員、番組会員の参加がありました。大変お忙しい中、鬼木誠氏（衆議院議員）や西川京子氏（前衆議院議員）にも駆けつけて頂きご挨拶いただくことができました。

定期総会では小菅亥三郎代表世話人が全会一致で議長に選任され議事を進行、世話人の津留毅氏（広告代理店勤務）が平成26年度活動報告、また、同じく世話人の原田泰宏氏（九州伝承遺産ネットワーク 特別顧問）が平成27年度活動計画の発表、満場一致の拍手により全ての議事が承認されました。また、役員選任では、新たに中山恭子氏（参議院議員）が顧問に就任した旨報告がありました。

続く記念講演会では、佐々木類先生（産経新聞九州総局長）による「第3次安倍政権と国際情勢の行方」と題する記念講演が行われました。先生は先日発表された安倍首相の終戦70年談話を評価され、各国やマスコミ等の反応を取り上げ、「談話」に表現された表と裏のポイントを解説、今後の政局などを記者の立場から縦横無尽に語られました。

講演会終了後には、佐々木先生をお囲みして、年中無休で頑張っておられるコメンテーターやスタッフの労をねぎらい、恒例の懇親会が和やかな雰囲気の中、盛大に行なわれました。

なお、総会・記念講演会の模様は、特別報道番組として番組ホームページのアーカイブでご覧いただけます。
（http://touron.l-mate.net/）

第2回

『スタジオ日本 日曜討論番組を支える会』

特別講演会・新会員歓迎会

平成28年3月5日、「スタジオ日本日曜討論番組を支える会　平成27年度　特別講演会・新会員歓迎会」が福岡市中央区渡辺通のテルラホールにおいて、盛大に開催されました。第一部の特別講演会では、はるばる沖縄より我那覇真子先生にご登壇いただき、約1時間半のご講演をいただきました。先生は、講演冒頭、前日の4日に米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）移設をめぐる代執行訴訟で政府と県の和解が成立した内容を伝える沖縄地元2紙「琉球新報」と「沖縄タイムス」を掲げて、いかに報道姿勢が歪曲しているかを解説されました。「『国が敗訴を回避』というのは一方的なレッテル貼り。法的には明らかに沖縄県が不利だ。今回の和解は、国が『沖縄が国からいじめられている』という世論操作にもっていかれないための配慮をしたものだ。このような真実と違う内容が沖縄では繰り返されている。しかし、このように騒いでいるのはごく一部の左翼系活動家で、ほとんどが日本各地から動員されている人達だ」と、その内実を基地周辺でのいざこざを撮影した映像や写真で説明されました。そして、ほとんどの沖縄県民は他県と同じように愛国的な人たちですと、平成26年の天皇皇后両陛下の沖縄行幸啓の奉迎の写真を示されました。「『琉球新報』と『沖縄タイムス』は決して沖縄の声を代表していない。むしろこのような言論によって、沖縄と日本の溝が深く広がっていくのではないかと心配している。真実を伝えるメディは沖縄には少ないが離島に八重山日報がある。また産經新聞も近年頑張っている。今沖縄は産經を必要としてる。どうぞ一緒に産經新聞の購読の輪を大きくしていきましょう」と呼びかけて講演を締めくくられました。

続いて我那覇真子先生もご参加になり、新会員歓迎会がおこなれました。今年度は新しく会員となられた方々のうち6名の方（当日入会2名を含む）がご参加になられました。新会員の紹介や近況の報告など、会員相互の親睦が大いに深められた会合となりました。

我那覇真子先生の講演会の模様を収録した動画は、「支える会」のホームページから「特別報道番組」としてアーカイブでご覧いただけます。（http://touron.l-mate.net/）

日曜討論放送のあゆみ

シリーズ紹介

日本再発見

『終戦70年 大日本帝國の復権』

本篇第97弾～本篇第101弾　全30回

平成27年6月7日～7月12日、7月19日～8月23日、9月13日～10月18日、10月25日～11月29日、平成28年1月10日～2月14日

終戦70周年を迎えて、私たちの足元は確かでしょうか。今もなお戦前の大いなる遺産によって、日本はその名を世界に揺るぎないものにしているにもかかわらず、世界が日本に抱く評価が戦前によって決まっているにもかかわらず、私たちは明治以来の日本を堂々と語ろうとはしません。

先の大東亜戦争に負けていなければ、明治以来の近代史は、今もなお燦然と輝いていたはずです。私たちは今日とは全く違う自分をもって、先人に恥じない雄渾の歴史に自分の存在を重ねていたに違いありません。占領政策によって戦後このように成りはしましたが、あの大東亜戦争に臨んだ大義は失われてはいません。占領政策の巧妙な言論統制と東京裁判によって、彼我の戦争の原因究明と我が国の敗戦の究明がなされないまま、ただよくわからない沈黙の中に、わが日本の大義は主張される日を待っているだけなのです。今その時が来ました。

実は、足元を見直す取り組みは79年前にもありました。昭和11年に「日本英雄伝」という全10巻の全集が刊行されます。我が国は、明治維新から約70年、西欧化によって近代制度を整え、日清・日露の両戦役を勝ち抜き、不平等条約を撤廃し、第一次大戦で戦勝国側となり、領土は台湾、朝鮮半島、南洋諸島と拡大しました。東洋の一島国は今や五大列強の一員となったのです。しかし、死力を尽くした日露戦争を遥かに超えた第一次大戦から18年、国家総力戦と共産主義という巨大な問題を抱えつつ、ブロック経済という新国際ルールの中で、自ら自存自衛の道を切り開かねばならない状況の中に置かれていました。打開の道を求めて、自ずから足元を見直さなければなりませんでした。こうした状況が「日本英雄伝」を刊行させたのです。我が国の歴史に活躍した1千人の先人たちの生きざまを鑑として日本人としての自分を問い直したのです。番組では、この中から明治から昭和11年まで活躍した先人たちを取り上げて、私たちも自分たちの足元を見直してみたいと思います。

〈シリーズ　其の一　明治－大正－昭和の発明家、技術者、学者たち〉

第1回　『日本英雄伝』から本木昌造、真崎照郷、西川藤吉を語る　平成27年6月7日放送
木村秀人／安倍輝彦・津留毅／中実柚菜／なし

第2回　『日本英雄伝』から村田経芳、宮原二郎、下瀬雅允を語る　平成27年6月14日放送
木村秀人／萩尾行孝／中実柚菜／なし

第3回　『日本英雄伝』から沖野忠雄、古市公威、寺野精一を語る　平成27年6月21日放送
木村秀人／平尾文洋／中実柚菜／なし

第4回　『日本英雄伝』から手島精一、井口在屋、堀井新治郎を語る　平成27年6月28日放送
津留毅／佐々木将太／中実柚菜／なし

第5回　『日本英雄伝』から藤岡市助、北村政治郎、鳥潟右一を語る　平成27年7月5日放送
原田泰宏／佐々木将太／中実柚菜／なし

第6回　『日本英雄伝』から伊達彌助、御法川直三郎、豊田佐吉を語る　平成27年7月12日放送
小菅亥三郎／柴崎一郎・奈田明憲／中実柚菜／なし

〈シリーズ　其の二 明治－大正－昭和の学者たち〉

第1回　『日本英雄伝』から石川千代松、飯島魁、渡瀬庄三郎を語る　平成27年7月19日放送
小菅亥三郎／平尾文洋・萩尾行孝・三瀬博己／中実柚菜／なし

第2回　『日本英雄伝』から高峰譲吉、高橋克己、大森房吉を語る　平成27年7月26日放送
津留毅／富原浩・奈田明憲・齊藤梅子／中実柚菜／なし

第3回　『日本英雄伝』から山崎直方、松野磵、守屋物四郎を語る　平成27年8月2日放送
木村秀人／萩尾行孝・森岡敬子・久米要三郎／中実柚菜／なし

第4回　『日本英雄伝』から杉亨二、外山亀太郎、山川健次郎を語る　平成27年8月9日放送
木村秀人／中島公明・永濱武司・野間修・佐々木将太／中実柚菜／なし

第5回　『日本英雄伝』から菊池大麓、藤沢利喜太郎、林鶴一を語る　平成27年8月16日放送
原田泰宏／安倍輝彦・大山猛・佐々木将太／中実柚菜／なし

第6回　『日本英雄伝』から津田真道、富井政章、梅謙次郎を語る　平成27年8月23日放送
津留毅／富原浩・奈田明憲・舩津邦彦／中実柚菜／なし

〈シリーズ　其の三 明治－大正－昭和の実業家たち〉

第1回　『日本英雄伝』から古河市兵衛、磯崎眠亀、田中平八を語る　平成27年9月13日放送
津留毅／奈田明憲・三瀬博巳・柴崎一郎／中実柚菜／なし

第2回　『日本英雄伝』から五代友厚、岩崎弥太郎、大橋佐平を語る　平成27年9月20日放送
原田泰宏／安倍輝彦・萩尾行孝・大山猛／中実柚菜／なし

第3回　『日本英雄伝』から大倉喜八郎、安田善次郎、渋沢栄一を語る　平成27年9月27日放送
木村秀人／奈田明憲・野間修・久米要三郎／中実柚菜／なし

第4回　『日本英雄伝』から馬越恭平、大谷嘉兵衛、佐久間貞一を語る　平成27年10月4日放送
津留毅／平尾文洋・舩津邦彦・齊藤梅子／中実柚菜／なし

第5回　『日本英雄伝』から雨宮敬次郎、浅野總一郎、近藤廉平を語る　平成27年10月11日放送
舩津邦彦／萩尾行孝・野間修・佐々木将太／中実柚菜／なし

第6回　『日本英雄伝』から安川敬一郎、豊川良平、小林富次郎を語る　平成27年10月18日放送
小菅亥三郎／三瀬博巳・中島公明・佐々木将太／中実柚菜／なし

〈シリーズ　其の四 明治－大正－昭和の軍人たち〉

第1回　『日本英雄伝』から石津田出、野津鎮雄を語る　平成27年10月25日放送
津留毅／柴崎一郎・平尾文洋／中実柚菜／なし

第2回　『日本英雄伝』から高永山武四郎、谷干城を語る　平成27年11月1日放送
原田泰宏／三瀬博巳・安倍輝彦・中島公明／中実柚菜／なし

第3回　『日本英雄伝』から山縣有朋、野津道貫を語る　平成27年11月8日放送
田中道夫／奈田明憲・永濱浩之・舩津邦彦／中実柚菜／なし

第4回　『日本英雄伝』から中牟田倉之助、伊東祐亨を語る　平成27年11月15日放送
木村秀人／大山猛・久米要三郎・平尾文洋／中実柚菜／なし

第5回　『日本英雄伝』から上村彦之丞、東郷平八郎を語る　平成27年11月22日放送
津留毅／三瀬博巳・柴崎一郎・佐々木将太／中実柚菜／なし

第6回　『日本英雄伝』から柴山矢八、山本権兵衛を語る　平成27年11月29日放送
舩津邦彦／奈田明憲・大山猛・久米要三郎／中実柚菜／なし

〈シリーズ　其の五 明治－大正－昭和の外交官と郷土福岡の偉人たち〉

第1回　『日本英雄伝』から有賀長雄、栗本鋤雲を語る　平成28年1月10日放送
原田泰宏／三瀬博巳・奈田明憲／中実柚菜／なし

第2回　『日本英雄伝』から副島種臣、松平康直を語る　平成28年1月17日放送
津留毅／安倍輝彦・久米要三郎／中実柚菜／なし

第3回　『日本英雄伝』から陸奥宗光、林董を語る　平成28年1月24日放送
舩津邦彦／永濱浩之・齊藤梅子／中実柚菜／なし

第4回　『日本英雄伝』から明石元二郎、金子堅太郎を語る　平成28年1月31日放送
木村秀人／平尾文洋・三瀬博巳・柴崎一郎／中実柚菜／なし

第5回　『日本英雄伝』から平岡浩太郎、山座円次郎を語る　平成28年2月7日放送
田中道夫／奈田明憲・平尾文洋・佐々木将太／中実柚菜／なし

第6回　『日本英雄伝』から孫文に関わった福岡の人々を語る　平成28年2月14日放送
小菅亥三郎／安倍輝彦・富原浩・大山猛／中実柚菜／なし

※ 出演者は　コメンテーター／ゲスト／パーソナリティ／アシスタント　の順で表記した。 ※ 敬称略。

日本再発見

『日清講和条約締結120年／終戦70年 福岡宣言 －原台湾人元日本兵軍人軍属英霊顕彰の旅』

本篇第102弾　全6回
平成28年2月21日～3月27日

中華民国（台湾）総統府前にて記念撮影する第17次日華（台）親善友好慰霊訪問団

平成11年から開始された「海の彼方のニッポンを訪ねて」の旅も第17次を数えるまでになりました。ささやかな社員研修旅行から始まった慰霊訪問の旅も、今日では、①大東亜戦争で散華された台湾人同胞のご英霊3万3千余柱の英霊顕彰と慰霊祭参列、②領台時代の魂を継承する現地台湾人との家族交流・兄弟交流、③御祭神他が日本統治時代に淵源を有するところへの参拝や訪問、④中華民國外交部をはじめとする各地の公的機関他への表敬訪問という4つの目的を持つまでに至り、日台の魂の交流事業として国際的に認知されるまでになりました。

第17次訪問団の旅は、昨年11月22日(日)から26日(木)までの4泊5日の日程で32名が参加されました。今回の大きな特徴は、①日清講和条約締結120年、終戦70年、霊安故郷碑建碑25年の記念すべき年での訪台であったこと、②いま台湾は大きく生まれ変わろうとしており、我が国で言えば、さながら明治維新前夜のような状況の最中に訪問できたこと、③団員に4人の地方議員が加わり、台湾を主軸に据えた近隣諸国政策に大きく舵をとりつつある現在の我が国の潮流を色濃く反映できたこと、④台湾軍司令官で高砂義勇隊の生みの親である本間雅晴中将の縁戚の団員の参加や沖縄支部2人の合流がかちとれたことにより、年齢、動機や使命感で多様性溢れる訪問団を編成できたこと等が挙げられます。又、今回は高雄市の「戦争と平和記念公園」や「中華民國総統府」も旅程(初)に組み込み、画期的な旅となりました。

今回のシリーズでは、第17次訪問団の参加者や支援者の皆様にご登場いただき、動画や写真等を交えながら日本と台湾のこれからの関係を考えて参りたいと思います。

〈シリーズ〉

第1回	**明石元二郎台湾総督墓所、黄文雄先生による歓迎夕食会**	平成27年6月7日放送
	田中道夫／田口俊哉・永濱浩之／中実柚菜／小菅亥三郎・池田裕二	
第2回	**台湾無名戦士紀念碑、東龍宮、台湾支部長ご夫妻による歓迎の夕食会**	平成27年6月14日放送
	原田泰宏／中山雄夫・柴崎一郎・石川秀久／中実柚菜／池田裕二	
第3回	**保安堂、高雄市表敬訪問、飛虎将軍廟、海尾朝皇宮、奇美博物館、台灣台日海交會による歓迎の夕食会**	平成27年6月21日放送
	田中道夫／松俵義博・新開崇司・我那覇真子／中実柚菜／池田裕二	
第4回	**宝覚寺、日本人墓地、霊安故郷碑、台中公園、台湾中日海交協会による歓迎の昼食会、濟化宮、台日文化經濟協会による歓迎夕食会 中華民國総統府見学、中華民國外交部表敬訪問**	平成27年6月28日放送
	津留毅／石川秀久・平尾文洋・岩重誠／中実柚菜／池田裕二	
第5回	**『日本英雄伝』から伊達彌助、御法川直三郎、豊田佐吉を語る**	平成27年7月5日放送
	大山猛／横尾秋洋・三瀬博己／中実柚菜／池田裕二	
第6回	**第17次台湾慰霊訪問の旅を終えて**	平成27年7月12日放送
	小菅亥三郎／山本博久・中島公明・後藤武司／中実柚菜／池田裕二	

※ 出演者は　コメンテーター／ゲスト／パーソナリティ／アシスタント　の順で表記した。　※ 敬称略。

日本再発見

『領台時代から蔡英文までの台湾教育を語る』

本篇第103弾　全6回
平成28年4月3日～5月8日

台湾総統府前の就任式典会場で手を振る蔡英文氏。初めての女性総統となる＝平成 28 年5月20 日、台北（共同）

明治27年(1894)8月1日、朝鮮の帰属をめぐってわが国と清国との間で戦端が開かれました。日清戦争です。わが国の勝利に帰結した結果、明治28年(1895)4月17日、下関で日本側全権伊藤博文、陸奥宗光と清国側全権李鴻章、李経方とによって日清講和条約が締結され、台湾は清国より割譲、国際法上わが国の領土になりました。しかし、台湾における領土編入作業は樺太千島交換条約の実行のように、円滑に行われたわけではありません。清国軍との度重なる戦闘で、双方(特に台湾側住民)とも多大な犠牲を払いながら、ようやく成就したものでした。

わが国は当時、台湾に住んでいた人々に対し2年間の猶予期間を設けて、台湾に留まり日本人となるか、財産を処分して台湾を去るかどちらかを選択させました。よく考えれば、台湾住民が守ろうとした田圃や畑、住居等は果たして命を懸けて守らなければ失うものだったのでしょうか。本来、日清講和条約に定めた手続きで進めば無事に済むはずなのに、なぜ悲惨な戦いになったのでしょうか。彼らは、なぜ国際法を無視してまで戦いに踏み込んでいったのでしょうか。

新聞もラジオもテレビもなく、もちろんパソコンもインターネットもなかった時代、彼らの情報源も、法的概念も、国際観も、立身出世も清国の官僚たちに左右されていました。その官僚たち自身も、また科挙の産物そのものだったのです。よって、台湾全体、ひいて言えば清国全体が非常にナショナリズムに扇動されやすい状態に置かれていました。この現象は、今日の中国に非常に似ています。つまり清国の前近代的な教育と思想により、避けられるべき戦争が避けられなくなってしまったのです。それから50年を経て、日本統治下の台湾は、近代教育により、清国の前近代的教育から脱皮し、当時のわが国に近い現代社会に変身しました。今日、台湾人と中国人の根本的な違いは、この50年間の教育のお陰であると言っても過言ではありません。

〈シリーズ〉

第1回	**120年前の台湾独立戦争**	平成28年4月3日放送
	原田泰宏／柳原憲一・安部輝彦／中実柚菜／茅野輝章	
第2回	**領台初期の教育－国民教育の定着**	平成28年4月10日放送
	木村秀人／柳原憲一・矢ヶ部大輔・劉彦承／中実柚菜／なし	
第3回	**領台中期の教育－民主主義の啓蒙**	平成28年4月17日放送
	津留毅／柳原憲一・奈田明憲／中実柚菜／なし	
第4回	**領台後期の教育－いわゆる戦前世代（日本語世代）の形成**	平成28年4月24日放送
	津留毅／柳原憲一・岩重誠・劉蘊／中実柚菜／茅野輝章	
第5回	**中戦後国民党主導の教育－いわゆる北京語世代の形成**	平成28年5月1日放送
	大山猛／柳原憲一・奈田明憲・鄭景鴻／中実柚菜／茅野輝章	
第6回	**台湾主体の教育－いわゆる太陽花世代の形成**	平成28年5月8日放送
	小菅亥三郎／柳原憲一・横尾秋洋・湯舒涵／中実柚菜／なし	

※ 出演者は　コメンテーター／ゲスト／パーソナリティ／アシスタント　の順で表記した。 ※ 敬称略。

日本再発見

『慰安婦問題の構造と理解と、慰安婦日韓合意』

本篇第104弾　全4回
平成28年5月15日～6月5日

２０１５年１２月３０日、ソウルの日本大使館前で慰安婦像を囲み、日韓の最終合意に抗議する元慰安婦や支持団体のメンバーら（名村隆寛撮影）

平成27年12月28日に、岸田文雄外務大臣と尹炳世（ユン・ビョンセ、）外相は、ソウルで会談し、慰安婦問題について「最終的かつ不可逆的に解決される」との認識で合意し、韓国政府が日本政府を国際社会で非難、批判することを控える旨が確認されました。また、元慰安婦を支援する事業のため韓国政府が財団を設立し、日本政府が予算10億円程度を一括拠出することでも一致した、とする「慰安婦」日韓合意がなされました。

しかし、その内容は、歴史的事実との齟齬により、わが国並びに国のために戦った先達の名誉を著しく汚すばかりか、合意の履行が韓国政府任せという杜撰さからも判断できるように、今後も国益を害し続ける玉虫色の産物に違いありません。

そもそも韓国は、日本を貶めるのが国家戦略になっており、世界に向かっての謀略プロパガンダは依然として進行中であり、歴史が続く限りこれからもずっと継続すると考えられます。事実、韓国による慰安婦強制連行や性奴隷のプロパガンダの拡散は、民間の名のもとに、さらなる慰安婦像設置になっていき、今ではそのために中国との共闘まで囁かれる始末です。

また、「軍の関与」及び謝罪をこの合意に盛り込んだことにより、20万人もの朝鮮人女性が性奴隷とされたなど、多くの虚報が世界中でまかり通る結果となりました。さらに、この合意とは別に、慰安婦問題を捏造した朝日新聞が、平成26年8月の吉田証言記事取り消し後も、世界への英文記事配信においては、反省どころか虚報を発信し続けていた事実も明らかになりました。

これらは、慰安婦の強制はないとする政府の閣議決定や国会の答弁とは全く異なるものであり、今後もわが国の国益を害し続け、国際社会に遺恨や混乱の種を蒔くことだけは確かです。いわゆる「従軍慰安婦」問題に対してわが国の政治家や官僚がとってきた態度ほど、不作為と優柔不断の織り成す連鎖はないといっても過言ではありません。

〈シリーズ〉

第1回	**捏造・冤罪の従軍慰安婦問題の時系列と構造**	平成28年5月15日放送
	三瀬博己／永濱浩之・大山猛・田口俊哉／中実柚菜／なし	
第2回	**慰安婦問題と朝日新聞の大罪**	平成28年5月22日放送
	三瀬博己／安倍輝彦・原田泰宏・齊藤梅子／中実柚菜／なし	
第3回	**韓国そして中国（中共）のプロパガンダと国連**	平成28年5月29日放送
	三瀬博己／平尾文洋・中島公明・湯下雅俊／中実柚菜／なし	
第4回	**平成27年12月28日における慰安婦日韓合意と女子差別撤廃委員会と政治的不作為**	平成28年6月5日放送
	木村秀人／後藤武司・湯下雅俊／中実柚菜／柴田新一郎	

※ 出演者は　コメンテーター／ゲスト／パーソナリティ／アシスタント　の順で表記した。 ※ 敬称略。

日本再発見

『武士道の覚醒への警鐘－岩屋城の戦い』

本篇第105弾　全6回
平成28年6月19日～7月24日

「あなたの故郷は、どんな故郷ですか？」「その故郷には、どんな歴史がありますか？」「その故郷では、どんな方が尊敬されていますか？」「その故郷では、どんな事が大切にされ誇りとされていますか？」皆様はこのような質問をされて、困ったことはありませんか。まともに答えられずに、失望や嘲笑や叱責を受けたことはありませんか。更にすすんでそのために、商談や契約を断られたりしたことはありませんか。今日のわが国・日本ではこの質問にまともに答えられないからと、このことが嘲笑やトラブルに発展することは考え難いです。しかし、欧州に行かれた複数の方々から、先ずこの質問有きでまともな答えができなければ、このような対応をとられると聞きました。以後は信用されず、まともに付き合ってくれないそうです。

岩屋城は今から１３００年も昔に造られた大野城の一部を利用して、戦国時代に築かれた。本丸跡の中央には、勇敢に戦って玉砕した高橋紹運を主将とする７６３名の将兵をしのんで石碑が建てられている。「嗚呼壮烈岩屋城址」と彫られている。

よく考えてみると欧州の方に道理があり、当然の対応だということを教えられました。わが国・日本にもかつては同じ道理が生きていましたが、今や廃れかけています。冒頭の「故郷」を「国」に置き換えて見て下さい。誰しにも判る道理が浮かびます。『自分の国や郷土を大切にしているなら、これらの事は学び、身につけ、即答できて当たり前で、答えられないのは大切にしていない証拠。このような己の国・郷土を大切にしない者は、家族を見捨て自分さえ助かればよいという卑怯者で頭から信用できない。家族や自分を大切に守りたいなら、国・郷土を大切に守らなければ守れない。このような者には、他国や他郷の者との約束を死んでも守る事など出来ない。大切にするとは、死んでも守ること。だから相手にしないし、大切な約束もしない。』この普通の道理が欧州では今も生きていて、日本ではなくなりかけている卑近な事象ではないかと思います。一世代前の日本には欧州と同じ道理がもっと濃厚に生きていました。ほとんどの人が冒頭の質問に即答出来たのみならず、大切な家族や郷土を守る為にその面目をかけて、多数の方々が逍遥と死し日本を守り抜いてくれました。冒頭の「故郷」を「家族」に置き換えて答えられますか？故郷と家族の歴史を学び直し、日本人総てがこれに即答できるようにならなければ日本は無くなります。「岩屋城シリーズ」はそための放送です。聴いてください。

〈シリーズ〉

第1回	**大宰府のはじまり－歴史にみる太宰府の位置づけ**	平成28年6月19日放送
	原田泰宏／柴崎一郎・奈田明憲・井手良明／中実柚菜／なし	
第2回	**戦国乱世の九州の武将たち 吉弘鎮理（高橋紹運）とその一族**	平成28年6月26日放送
	柴崎一郎／久米要三郎・野間修／中実柚菜／なし	
第3回	**高橋紹運 戦神の采配－岩屋城の戦い**	平成28年7月3日放送
	柴崎一郎／平尾文洋・井手良明・花田和幸／中実柚菜／なし	
第4回	**乱世の華 高橋紹運に見る和と「まこと」**	平成28年7月10日放送
	柴崎一郎／奈田明憲・三瀬博己／中実柚菜／なし	
第5回	**軍人勅諭・教育勅語にみる武士の道徳と国民の道徳**	平成28年7月17日放送
	小菅亥三郎／久米要三郎・野間修／中実柚菜／なし	
第6回	**学校教育から消された郷土の武人たち**	平成28年7月24日放送
	柴崎一郎／田中道夫・安倍輝彦／中実柚菜／なし	

※ 出演者は　コメンテーター／ゲスト／パーソナリティ／アシスタント　の順で表記した。 ※ 敬称略。

特　別　番　組

黄文雄先生 終戦70年に福岡宣言を語る

周年篇第8弾　平成27年8月30日放送

出演者：小菅亥三郎／田中道夫・富原浩・黄文雄／中実柚菜／なし

今回は、日華（台）親善友好慰霊訪問団主催の第13回台湾特別講演会での講演のために6月21日に連続11回目の来福をされた黄文雄先生に特別出演していただき、5つのテーマについて語っていただきます。まず第1に「台湾の選挙」、第2に「台湾の言語空間」、第3に「台湾人の慰霊概念」、第4に「台湾人の生死観、日本人の死生観」、そして第5に「福岡宣言」と多岐に亘って文明史家の立場から忌憚のないご意見を伺います。

施光恒先生に聞く 英語化は愚民化 日本の国力が地に落ちる

周年篇第9弾　平成27年9月6日放送

出演者：小菅亥三郎／施光恒・山本須賀子・津留毅／中実柚菜／なし

大東亜戦争終戦70年にあたる先月、巷のマスコミ界では病的ともいえる嫌日・反日・侮日・憎日の反戦企画が執拗に繰り返されている最中の8月29日（土）、英霊が眠れる福岡縣護國神社参集殿にて、施光恒先生の新刊書の出版記念講演会が開催されました。

日本が大東亜戦争に敗れた日、終戦の日は、連合国、とりわけ米国にとっては、わが国を丸ごと変質せしめ、彼らの属国化、ひいては属州化までをも射程に入れた最終的な勝利のための情報戦、思想戦の開戦記念日だったのです。その後6年8ヶ月という異例の長さとも言える占領統治の結果、巧緻に長けた情報戦、思想戦を70年も仕掛けられてきました。我々が日常使い考えている国語＝日本語こそ、日本人の根幹である。英語化は日本人の愚民化であり、日本社会の崩壊を意図するものである。

ひとづくり問題／日本人を掘り起こすIII－『素読と暗誦による国づくり』

特別篇第27弾　平成27年12月6日放送

出演者：小菅亥三郎／原田泰宏・津留毅／中実柚菜／なし

書を読むとき、畳の上に正座して書見台に置いた本の頁をめくりながら音読していく形式を素読といいます。幼児教育や初等中等教育で大切にされる教育法で、身体に染み込ませるには最善の方法です。国民の叡智をいかにして形作ってきたかという局面からいえば、明治・大正・昭和、というより大東亜戦争終戦前の文化は圧倒的に素読が主流でした。そして繰り返し素読することによって暗誦していきました。当時の国民全員の意識を形作っていったのは教育勅語でした。そして、志願、徴兵問わず成人して陸軍に入隊した男子の心掛けや立ち居振舞いの教則本は軍人勅諭でした。世界から尊敬された戦前の平均的日本人が持っていた公心（おおやけごころ）と責任感、そしてそれを貫徹するための勇気はかくして形成されていったのです。

ひとづくり問題／岩屋城と高橋紹運

特別篇第28弾　平成27年12月13日放送

出演者：小菅亥三郎／柴崎一郎・野間修・齊藤梅子／中実柚菜／なし

今回は、豊臣秀吉の天下統一にも深い関わりのある大宰府の四王寺山、岩屋城で守る側763人全員が玉砕という苛烈な戦いをした高橋紹運を紹介します。如何に生き、如何に死すかは、人が人たる所以そのものといっても過言ではありません。御身大事と保身に走り、信義を踏みにじり、私欲省みず生に執着する輩は人に非ず、と義を貫いたそのメンタリティこそ、現代の日本人が鏡とすべき大切なものといえるでしょう。

今年1年を振り返って

年末年始篇第19弾　平成27年12月20日放送

出演者：原田泰宏／三瀬博巳・安倍輝彦・永濱浩之／中実柚菜／なし

年末年始の企画として、今年平成27年を振り返り、主なニュースの中から気分の良いものも悪いものも冷静に取り上げ、論評を加えていきたいと思います。じっくり考えて意見を述べることも大切ですが、次から次に眼前に現出する事象に対し、一瞬のうちに判断を下し、その寸評をやってのける力こそが実生活で必要とされる力です。

我那覇真子が見た台湾

年末年始篇第20弾　平成27年12月27日放送

出演者：小菅亥三郎／我那覇真子／中実柚菜／なし

平成11年から開始された「海の彼方のニッポンを訪ねて」の旅も第17次を数えるまでになりました。今日では、①大東亜戦争で散華された台湾人同胞のご英霊3万3千余柱の英霊顕彰と慰霊祭参列、②領台時代の魂を継承する現地台湾人との家族交流・兄弟交流、③御祭神他が日本統治時代に淵源を有するところへの参拝や訪問、④中華民國外交部をはじめとする各地の公的機関他への表敬訪問という4つの目的を持つまでに至り、日台の魂の交流事業として国際的に認知されるようになりました。今回は、沖縄支部から参加された我那覇真子さんにご出演いただき、我那覇さんが直接見て、感じられた台湾を語って頂きます。

日本のこころを大切にする党代表 中山恭子が語る 平成28年

年末年始篇第21弾　平成28年1月3日放送

出演者：小菅亥三郎／中山恭子・津留毅／中実柚菜／茅野輝章

放送開始13年目を迎える平成28年の年頭は、「日本のこころを大切にする党」代表、中山恭子参議院議員にご登場いただきます。

昨年は、終戦70年でしたが、これからの50年先、70年先を考えると、今ほど「日本の有様」「日本の礎」を築くために大事な時はありません。そのために取り組むべき課題が山積しています。本日は中山先生に、「日本のこころを大切にする党」の基本政策も交えながら、憲法、安全保障、教育再生など、わが国が取り組むべき諸問題を中心に、平成28年を語って戴きたいと思います。

黄文雄先生 台湾維新元年に 日台の魂の交流を語る

周年篇第10弾　平成28年6月12日放送

出演者：小菅亥三郎／黄文雄・高橋幸久／中実柚菜／なし

今年1月16日に台湾総統選で選ばれた蔡英文女史は5月20日の就任式を経て、多数派与党を率い、いよいよ国政の舵取りに船出しました。中華民國第14代総統として台湾のトップに躍り出た瞬間です。そこで今回は、日華(台)親善友好慰霊訪問団主催の第14回台湾特別講演会での講演のために6月5日に連続12回目の来福をされた黄文雄先生に特別出演していただき、『日台の魂の交流』について語っていただきます。

スタジオ日本日曜討論 放送のあゆみ アーカイブ

平成15年（2003）

10月 5日	『男女共同参画を考える』本篇1（H15.10.5～11.9全6回）
11月16日	『歴史教育を考える』本篇2（H15.11.16～12.21全6回）
12月28日	『台湾前総統李登輝先生とお会いして』年末年始篇1

平成16年（2004）

1月 4日	『日曜討論を振り返って』年末年始篇2
1月11日	『日本の建国を考える』本篇3（H16.1.11～2.15全6回）
2月22日	『海の彼方のニッポン“台湾”を訪ねて』本篇4（H16.2.22～3.28全6回）
4月 4日	『日本の国境線を考える』本篇5（H16.4.4～5.9全6回）
5月16日	『近くて遠い国・韓国』本篇6（H16.5.16～6.20全6回）
7月 4日	『活躍する自衛隊』本篇7（H16.7.4～8.8全6回）
8月15日	『愛は家庭から』本篇8（H16.8.15～9.19全6回）
9月26日	『真の日中友好を考える①（日中再考ー似て非なる隣人）』周年篇1
10月 3日	『靖國神社』本篇9（H16.10.3～11.7全6回）
11月14日	『軍隊体験』本篇10（H16.11.14～12.19全6回）
12月26日	『慰霊は日台の魂の交流』年末年始篇3

平成17年（2005）

1月 2日	『台湾からのメッセージ』年末年始篇4
1月 9日	『家族の絆』本篇11（H17.1.9～2.20全6回）
6月27日	『社会の幸福』本篇12（H16.6.27、H17.2.20～3.27全6回）
3月20日	『時事問題／竹島問題を考える』特別篇1
4月 3日	『中学歴史教科書』本篇13（H17.4.3～5.8全6回）
5月15日	『日本の誇り自衛隊』本篇14（H17.5.15～6.27全6回）
5月29日	『時事問題／"百人斬り"は冤罪だ』特別篇2
7月 3日	『真の日中友好を考える②（反日中国に如何に対応すべきか）』周年篇2
7月10日	『子どもは授かりもの』本篇15（H17.7.10～8.14全6回）
8月21日	『英霊顕彰』本篇16（H17.8.21～9.25全6回）
10月 2日	『昭和天皇御巡幸』本篇17（H17.10.2～11.6全6回）
11月13日	『今こそ実行、日本の教育改革』本篇18（H17.11.13～12.25全6回）
12月18日	『教育問題／ゆとり教育を問い直す』特別篇3

平成18年（2006）

1月 1日	『平成18年日本の課題を展望する』年末年始篇5
1月 8日	『海の彼方のニッポン台湾""を訪ねて?慰霊は日台の魂の交流"』年末年始篇6
1月15日	『北朝鮮拉致問題』本篇19（H18.1.15～2.19全5回）
2月12日	『時事問題／皇位継承と皇室典範改定』特別篇4
2月26日	『日本の安全保障』本篇20（H18.2.26～3.26全5回）
4月 2日	『古高取』本篇21（H18.4.2～5.7全6回）
5月14日	『次代の担い手・大学生』本篇22（H18.5.14～6.18全6回）
6月25日	『幸せな結婚』本篇23（H18.6.25～7.30全6回）
8月 6日	『首相の靖國参拝』本篇24（H18.8.6～27全4回）
9月 3日	『私たちの国民保護法』本篇25（H18.9.3～24全4回）
10月 1日	『台中問題／ようこそ、第8次日華(台)親善友好慰霊訪問団へ』特別篇5
10月 8日	『まちづくり問題／よりよい福岡市づくりを』特別篇6
10月15日	『韓国最新レポート』本篇26（H18.10.15～11.19全6回）
11月26日	『満州事変・支那事変は侵略ではない』本篇27（H18.11.26～12.31全6回）

平成19年（2007）

1月 7日	『海の彼方のニッポン"台湾"を訪ねてー台湾防衛は英霊との約束』年末年始篇7
1月14日	『日韓併合を検証する』本篇28（H19.1.14～4.1全12回）
4月 8日	『日本のこころー歌の玉手箱』本篇29（H19.4.8～5.13全6回）
5月20日	『国境の島・対馬を守れ』本篇30（H19.5.20～6.24全5回）

6月 3日 『真の日中友好を考える③（増大する覇権主義中国の軍事的脅威に日台は如何に対応すべきか）』周年篇3
7月 1日 『元寇と博多』本篇31（H19.7.1～8.12全6回）
8月 5日 『くにづくり問題／世界一日本に自信と誇りを』特別篇7
8月19日 『安倍政権の成果を検証する』本篇32（H19.8.19～9.23全6回）
9月30日 『明日の日本を担う大学生』本篇33（H19.9.30～11.11全6回）
10月14日 『時事問題／沖縄戦集団自決の真相と教科書検定』特別篇8
11月18日 『時事問題／沖縄戦集団自決は軍命令ではない①』特別篇9
11月25日 『時事問題／沖縄戦集団自決は軍命令ではない②』特別篇10
12月 2日 『時事問題／教科書問題と沖縄県民の総意』特別篇11
12月 9日 『時事問題／中国の工作から沖縄を守れ』特別篇12
12月16日 『今上天皇の大御心』本篇34（H19.12.16～H20.1.19全6回）

平成20年（2008）

1月27日 『福田政権下の危険な政治課題』本篇35（H20.1.27～3.2全6回）
3月 9日 『台湾に慰霊の真心を尽して』本篇36（H20.3.9～4.13全6回）
4月20日 『環境問題への疑問』本篇37（H20.4.20～5.25全6回）
6月 1日 『新教育基本法のめざすもの』本篇38（H20.6.1～7.6全6回）
7月13日 『となりの国、中華人民共和国をよく知ろう』本篇39（H20.7.13～8.24全6回）
7月27日 『時事問題／天皇陛下御即位20年奉祝を全国各地で!』特別篇13
8月31日 『日本人と中国人はこれほども違う』本篇40（H20.8.31～10.5全6回）
10月12日 『今上天皇の御跡をお偲びして』本篇41（H20.10.12～11.9全5回）
11月16日 『時事問題／田母神論文と村山談話』特別篇14
11月23日 『日韓の歴史認識を考える』本篇42（H20.11.23～12.28全6回）

平成21年（2009）

1月 4日 『頑張ろう、日本。遠藤宣彦衆議院議員に聞く』年末年始篇8
1月11日 『日本は侵略国家であったのか』本篇43（H21.1.11～2.15全6回）
2月22日 『日台魂の絆・十年』本篇44（H21.2.22～3.29全6回）
4月 5日 『私たちの領土は私たちで守ろう』本篇45（H21.4.5～5.10全6回）
5月17日 『国の安全・食の安全・身の安全』本篇46（H21.5.17～6.21全6回）
6月28日 『北朝鮮の核兵器にいかに対抗するか』本篇47（H21.6.28～8.2全6回）
8月 9日 『日韓併合100年を考える』本篇48（H21.8.9～9.27全6回）
8月23日 『軍人墓地の管理は国の責任である』周年篇4
9月 6日 『まちづくり問題／歌と町おこしー故郷（ふるさと）を歌う』特別篇15
10月 4日 『時事問題／永住外国人地方参政権は実現させてはならない』特別篇16
10月11日 『福岡城と陸軍』周年篇5
10月18日 『日韓歴史問題の争点』本篇49（H21.10.18～11.22全6回）
11月29日 『心に留めたい日本の歴史・日本人①』本篇50（H21.11.29～H22.1.17全6回）
12月13日 『時事問題／ちょっとまって!夫婦別姓』特別篇17

平成22年（2010）

1月 3日 『日台魂の交流に触れて』年末年始篇9
1月24日 『心に留めたい日本の歴史・日本人②』本篇51（H22.1.24～31全2回）
2月 7日 『永住外国人地方参政権は百害あって一利なし』本篇52（H22.2.7～28全4回）
3月 7日 『英霊顕彰と日台魂の絆』本篇53（H22.3.7～4.11全6回）
4月18日 『日本に移民は必要か』本篇54（H22.4.18～5.23全6回）
5月30日 『「古高取」と「京陶工」』本篇55（H22.5.30～7.4全6回）
7月11日 『日本の子供たちの未来を守るために』本篇56（H22.7.11～8.15全6回）
8月22日 『民主党の危険な政策、法案』本篇57（H22.8.22～9.26全6回）
10月 3日 『民主党の危険な政策、法案（続編）』本篇58（H22.10.3～11.7全6回）

11月14日 『中国は日本を敵と見ている事を忘れてはならない』本篇59（H22.11.14～12.26全7回）

平成23年（2011）

1月 2日 『韓半島の情勢と大学生による日韓交流秘話ー日韓連携で拉致問題の解決を目指して』年末年始篇10
1月 9日 『今思いおこす日本人の気概』本篇60（H23.1.9～2.13全6回）
2月20日 『歴史の争点』本篇61（H23.2.20～3.27全6回）
4月 3日 『実録台湾ーこれが真実の姿』本篇62（H23.4.3～5.8全6回）
5月15日 『沖縄戦集団自決最高裁判決は禍根を残す』本篇63（H23.5.15～29、6.12～26全6回）
6月 5日 『黄文雄先生　日本、中国の文化・政治・歴史を語る』周年篇6
7月 3日 『TPPは日本の国益となるのか』本篇64（H23.7.3～31、8.14全6回）
8月 7日 『時事問題／「千船保釣」を阻止せよ!?沖縄・尖閣諸島を守るわれらが闘い』特別篇18
8月21日 『時事問題／自民党地方組織・議員総局長 衛藤晟一参議院議員に聞く 民主党が進める危険な法案と尖閣問題の行方』特別篇19
8月28日 『中国のウソと日中歴史問題』本篇65（H23.8.28～10.2全6回）
10月 9日 『南京で何がおこったのか』本篇66（H23.10.9～11.13全6回）
11月20日 『韓国朝鮮に謝罪するいわれはない』本篇67（H23.11.20～12.25全6回）

平成24年（2012）

1月 1日 『日本再生は保守を旗幟（はたじるし）にして』年末年始篇11
1月 8日 『知って驚く韓国の主張』本篇68（H24.1.8～2.12全6回）
2月19日 『日本再建は歴史の智恵に学んで』本篇69（H24.2.19～3.25全6回）
4月 1日 『ありがとう台湾ー世界一の親日国に感謝』本篇70（H24.4.1～5.6全6回）
5月13日 『日本の危機を突破せよ』本篇71（H24.5.13～6.17全6回）
6月24日 『中国が敵であることを忘れてはならない』本篇72（H24.6.24～7.8、7.22～8.5全6回）
7月15日 『まちづくり問題／歌と町おこしー国民が育つ郷土づくりを』特別篇20
8月12日 『まちづくり問題／福岡の恥・高島宗一郎市長の"中国公務員4,000人採用発言"を斬る』特別篇21
8月19日 『神話はなぜ消されたのか』本篇73（H24.8.19～9.23全6回）
9月30日 『反日中国・反日韓国にこう対処すべし』本篇74（H24.9.30～11.4全6回）
11月11日 『日本の礎、日本精神が世界を救う』本篇75（H24.11.11～12.16全6回）
12月23日 『日台・魂の絆、第14次慰霊訪問の旅を終えて』年末年始篇12
12月30日 『今年の日本の政治の総括と来年の展望』年末年始篇13

平成25年（2013）

1月6日 『参議院議員　中山恭子先生に聞く?親日国家ウズベキスタン』年末年始篇14
1月13日 『日本国成立の日ー我々はいつ日本人になったのか』本篇76（H25.1.13～2.17全6回）
2月24日 『継承すべき日台の絆ー世代の壁を乗り越えて』本篇77（H25.4.7～5.12全6回）
4月 7日 『中国韓国とは交戦中であることを覚悟せよ』本篇78（H25.4.7～5.12全6回）
5月19日 『靖國参拝に反対する中韓の目的』本篇79（H25.5.19～6.30全7回）
7月 7日 『韓国は叩け、さもなくばつけあがる』本篇80（H25.7.7～8.11全6回）
8月18日 『韓国とは対話は無用』本篇81（H25.8.18～9.22全6回）
9月29日 『韓国に不都合な真実』本篇82（H25.9.29～11.3全6回）
11月10日 『日露戦争に学ぶ日本人の気概』本篇83（H25.11.10、11.24～12.22全6回）
11月17日 『中国問題／恐怖の民事訴訟法第231条ー進出した日台企業を身ぐるみ剥ぎ取る独裁中国の国家犯罪を暴く』特別篇22
12月29日 『衆議院議員　鬼木誠先生に聞くーマスコミを日本人の手に取り戻す道』年末年始篇15

平成26年（2014）

1月 5日 『文部科学副大臣　西川京子先生に聞くー教育再生こそ国づくりの根幹』年末年始篇16
1月12日 『日露戦争に学ぶ日本人の気概（続編）』本篇84（H26.1.12～2.16全6回）
2月23日 『15年かけて築いた日台の絆ーかけがえのない家族交流・兄弟交流』本篇85（H26.2.23～3.30全6回）

4月 6日 『安倍首相は毎年靖國参拝をすべし』本篇86（H26.4.6～5.11全6回）
5月18日 『中共の台湾攻略を阻止せよ－中台両岸サービス貿易協定とひまわり学生運動』本篇87（H26.5.18～6.22全6回）
6月29日 『韓国には高飛車に出ろ』本篇88（H26.6.29、7.20～8.17全6回）
7月 6日 『護国の英霊に君が代を奉げて2千日－オペラ歌手　鶴澤美枝子の日本を取り戻す旅』周年篇7（H26.7.6全1回）
7月13日 『まちづくり問題／平成の初等中等教育は寺子屋で』特別篇23（H26.7.13全1回）
8月24日 『韓国軍のベトナム人大虐殺を告発する』本篇89（H26.8.24～9.28全6回）
10月 5日 『慰安婦問題　今こそ日本の冤罪を晴らす反撃を』本篇90（H26.10.5～11.9全6回）
11月16日 『外交の勝敗は歴史認識で決まる』本篇91（H26.11.16～12.21全6回）
12月28日 『ヘイトスピーチ規制論と日中首脳会談の意味』年末年始篇17

平成27年（2015）

1月 4日 『衆議院議員　鬼木誠先生に聞く－真に活力ある日本を取り戻すために』年末年始篇18
1月11日 『平成27年　日本の行く末を考える』本篇92（H27.1.11～25全3回）
2月 1日 『終戦70年・日韓国交正常化50年の歴史論争に勝つ』本篇93（H27.2.1～15全3回）
2月22日 『日本人のふるさとの宝庫・台湾－台湾にこそある原日本人への道標』本篇94（H27.2.22～3.29全6回）
4月 5日 『まちづくり問題／平和を祈る父子桜－沖縄特攻に散った戦艦大和と第二艦隊司令長官伊藤整一海軍大将』特別篇24（H27.4.5全1回）
4月12日 『日本国成立の日－あなたは日本の誕生日を知っていますか』本篇95（H27.4.12～26全3回）
5月 3日 『ひとづくり問題／日本人を掘り起こす－『日本人講座』』特別篇25（H27.5.3全1回）
5月10日 『古高取（直方市内ヶ磯窯）の陶工たちはだれだったのか』本篇96（H27.5.10～24全3回）
5月31日 『ひとづくり問題／日本人を掘り起こすII－『大日本帝國の先人の知』』特別篇26（H27.5.31全1回）
6月 7日 『終戦70年 大日本帝國の復権 明治－大正－昭和の発明家、技術者、学者たち』本篇97（H27.6.7～7.12全6回）
7月19日 『終戦70年 大日本帝國の復権 其の二 明治－大正－昭和の学者たち』本篇98（H27.7.19～8.23全6回）
8月30日 『黄文雄先生　終戦70年に福岡宣言を語る』周年篇8（H27.8.30全1回）
9月 6日 『施光恒先生に聞く 英語化は愚民化 日本の国力が地に落ちる』周年篇9（H27.9.6全1回）
9月13日 『終戦70年 大日本帝國の復権 其の三 明治－大正－昭和の実業家たち』本篇99（H27.9.13～10.18全6回）
10月25日 『終戦70年 大日本帝國の復権 其の四 明治－大正－昭和の軍人たち』本篇100（H27.10.25～11.29全6回）
12月 6日 『ひとづくり問題／日本人を掘り起こすIII－『素読と暗誦による国づくり』』特別篇27（H27.12.6全1回）
12月13日 『ひとづくり問題／岩屋城と高橋紹運』特別篇28（H27.12.13全1回）
12月20日 『今年1年を振り返って』年末年始篇19
12月27日 『我那覇真子が見た台湾』年末年始篇20

平成28年（2016）

1月 3日 『日本のこころを大切にする党代表　中山恭子が語る 平成28年』年末年始篇21
1月10日 『終戦70年 大日本帝國の復権 其の五 明治－大正－昭和の外交官と郷土福岡の偉人たち』本篇101（H28.1.10～2.14全6回）
2月21日 『日清講和条約締結120年／終戦70年　福岡宣言－原台湾人元日本兵軍人軍属英霊顕彰の旅』本篇102（H28.2.21～3.27全6回）
4月 3日 『領台時代から蔡英文までの台湾教育を語る』本篇103（H28.4.3～5.8全6回）
5月15日 『慰安婦問題の構造と理解と、慰安婦日韓合意』本篇104（H28.5.15～6.5全4回）
6月12日 『黄文雄先生 台湾維新元年に日台の魂の交流を語る』周年篇10（H28.6.12全1回）
6月19日 『武士道の覚醒への警鐘－岩屋城の戦い』本篇105（H28.6.19～7.10全4回）

番組開始13周年
「支える会」のあゆみ

平成12年（2000）

3月 3日 FM-MiMi開局…1

平成15年（2003）

8月30日 日本会議福岡主催の時局講演会開催(会場/女性センターアミカス)
講師/伊藤哲夫氏(日本政策研究センター所長)、演題/『男女共同参画社会を考える』…2
10月 1日 「日曜討論」事務局を日本教育開発内に開設…3
10月 5日 「FM-MiMi日曜討論」放送開始
コメンテーター確定(小菅1人体制)
収録CD(テープ)贈呈開始…4
10月25日 『FM日曜討論会大反響』西日本新聞朝刊に掲載…5
11月 9日 第1回慰労会(梅の花 9名)…6
12月15日 ライセンスメイト連載開始…7
12月21日 第2回慰労会(梅の花 9名)…8

平成16年（2004）

4月 4日 第3回慰労会(ウォーターリリー 13名)…9
5月15日 ライセンスメイト『日曜討論特集』発行…10
8月 8日 第4回 慰労会 (花万葉 24名)
※「FM-MiMi日曜討論番組を支える会」発起人会兼ねる〈以下「支える会」と表記〉…11
9月26日 第5回慰労会（花万葉 14名）…12

平成17年（2005）

3月 5日 第6回慰労会（花万葉 15名）…13
4月 1日 日本会議福岡の番組後援決定…14
4月 3日 コメンテーター増員(香月、伊藤が加わり3人体制へ)…15
8月15日 ライセンスメイト『日曜討論特集』発行…16
8月21日 「支える会」設立の集い・懇親会(平和樓 32名)…17
10月 2日 スポンサートーク開始…18

平成18年（2006）

3月 3日 放送局の名称変更（「FM-MiMi」から「StyleFM」）を機に番組名称を従来の「FM-MiMi日曜討論」から「StyleFM日曜討論」に変更
※これに伴い「FM-MiMi日曜討論番組を支える会」の名称も「StyleFM日曜討論番組を支える会」に変更…19
6月20日 「日曜討論かわら版」第1号発行（毎月20日発行）…20
8月15日 ライセンスメイト『日曜討論特集』発行…21
8月20日 「支える会」懇親会(テルラホール32名)役員改選、会計年度変更（→総会化）…22
10月 1日 コーヒーブレイク開始…23

平成19年（2007）

6月15日 ライセンスメイト『日曜討論特集』発行…24
8月19日 第1回「支える会」定期総会・講演会・懇親会(スカイホール38名)
江崎道朗先生（日本会議経済人同志会）「誇りある国づくり運動におけるメディア戦略の位置づけ」…25
12月 1日 「日本の息吹」にStyleFM日曜討論座談会記事掲載…26

平成20年（2008）

3月 3日 「StyleFM日曜討論」ホームページ開設…27
7月 1日 「支える会」ホームページ開設…28
8月17日 第2回「支える会」定期総会・講演会・懇親会(スカイホール44名)
江崎道朗先生（日本会議経済人同志会）「国益を守り真実を語り誠心を尽くすことに休日なし」…29
9月15日 ライセンスメイト『日曜討論特集』発行…30
10月 6日 「StyleFM日曜討論」定番広告を新聞他に出稿開始…31

平成21年（2009）

6月15日 ライセンスメイト『日曜討論特集』発行…32
8月23日 第3回「支える会」定期総会・講演会・懇親会(スカイホール47名)
江崎道朗先生（日本会議経済人同志会）「偏向報道の連鎖を断ち切ろう!—NHKスペシャル『JAPANデビュー』の偏向報道の裏にあるもの」…33
12月11日 第1回「支える会」新会員歓迎会・忘年会(花万葉24名)…34

平成22年（2010）

3月 6日 StyleFM開局10周年記念パーティ（JALリゾートシーホークホテル福岡「支える会」から3名参加）…35
5月13日 産經新聞で「日本に移民は必要か」意見広告掲載…36
6月15日 ライセンスメイト『日曜討論特集』発行…37
8月22日 第4回「支える会」定期総会・講演会・懇親会(テルラホール103名)
清水馨八郎先生（千葉大学名誉教授）「日本文化・文明の本質—参院選と民主党の正体・W杯の総括などを通して」…38
10月 1日 「日曜討論」スタジオを日本教育開発内に開設…39
10月22日 産經新聞で「尖閣諸島は先祖から受け継いだ私たち日本の国の領土です」意見広告掲載…40
11月 1日 放送局の名称変更（「StyleFM」から「NewVoice」）を機に番組名称を従来の「StyleFM日曜討論」から「スタジオ日本 日曜討論」に変更
※これに伴い「StyleFM日曜討論番組を支える会」の名称も「スタジオ日本 日曜討論番組を支える会」に変更…41
11月 7日 従来のラジオ（コミュニティFM）による放送を改めインターネット（ユーストリーム）による放送開始…42
12月10日 第2回「支える会」新会員歓迎会・忘年会(松幸40名)…43

平成23年（2011）

3月 2日 第1回スタジオ日本専任技術者研修会(てら岡7名)…44

8月21日 第5回「支える会」定期総会・講演会・懇親会（テルラホール82名）
江崎道朗先生（日本会議専任研究員）「マスコミの報じない歴史の真実／開戦70周年～東京裁判史観の見直しがアメリカで始まった」…45
9月15日 ライセンスメイト『日曜討論特集』発行…46
10月 1日 インターネットユーストリームによる放送期間(現在～平成22年11月)の解説表示付アーカイブ公開　※動画と音声と文字…47
11月 4日 産經新聞で「九州電力に感謝し、心から応援します。」意見広告掲載…48
11月 9日 第2回スタジオ日本専任技術者研修会（松幸10名）…49
12月 9日 第3回「支える会」新会員歓迎会・忘年会（松幸35名）…50
12月22日 産經新聞九州総局　野口裕之総局長歓迎会（セントラルホテル 10名）…51

平成24年（2012）

2月20日 日本会議福岡　かわら版による番組告知開始…52
2月27日 産經新聞で「待望の『日曜討論全番組アーカイブス』4月公開!」意見広告掲載…53
4月 1日 「日曜討論」全番組アーカイブ公開…54
6月24日 第3回スタジオ日本専任技術者研修会（花万葉9名）…55
8月 4日 産經新聞九州総局　野口裕之総局長送別会（江藤家 9名）・・・56
8月 5日 産經新聞で「福岡市長 髙島宗一郎くん いいかげん 国を売るのはおやめなさい。」意見広告掲載・・・57
8月 6日 産經新聞で「福岡市長 髙島宗一郎くん いいかげん 国を売るのはおやめなさい。」意見広告掲載・・・58
8月21日 福岡市庁舎を包囲し、登庁する職員に「産經新聞意見広告（8月5日・6日）」を配布し、覚書の白紙撤回を呼びかける
※7:30～8:30 10名 1,000枚（A3両面2折）快晴…59
8月26日 第6回「支える会」定期総会・講演会・懇親会（テルラホール 71名）
小山和伸先生（メディア報道研究政策センター理事長）「反日国家の対日政策に呼応、国家崩壊を目論む内なる敵　反日メディアを糾す」…60
9月15日 ライセンスメイト『日曜討論特集』発行…61
12月21日 第4回「支える会」年末総会・講演会・新会員歓迎会(松幸 60名)
中山恭子先生（参議院議員）「あの日、あの時。」…62

平成25年（2013）

3月23日 産經新聞九州総局　石橋文登総局長歓迎会（花万 8名）…63
8月25日 第7回「支える会」定期総会・講演会・懇親会（テルラホール 58名）
葛目浩一先生（新聞「アイデンティティ」主幹）「ミニコミ紙で出来る戦後秩序の変革－東京裁判史観と決別し、世界に冠たる道義国家を再建しよう」…64
9月 1日 「日曜討論」赤坂スタジオ開設…65
9月15日 ライセンスメイト『日曜討論特集』発行…66
10月 8日 「スタジオ日本　日本人講座」発起人会〈以降「日本人講座」と表記〉…67
11月 1日 日本の息吹による番組告知開始…68
12月20日 第5回「支える会」年末総会・講演会・新会員歓迎会(松幸 50名)
西川京子先生（文部科学副大臣）「教育再生こそ国づくりの根幹」…69

平成26年（2014）

1月21日 「日本人講座」事務局を日本教育開発内に開設…70
4月19日 「日本人講座」開講…71
5月18日 フェイスブックによる番組告知開始…72
8月24日 第8回「支える会」定期総会・講演会・懇親会（テルラホール 107名）
山口敏昭先生（日本時事評論論説委員）「目から鱗のホントの話―今、“当たり前”を言語化する必要性」…73
8月30日 産經新聞社西部本部と語る会（わが家白金 13名）…74
9月 5日 フクニチ住宅新聞による番組告知開始…75
9月10日 九栄会かわら版による番組告知開始…76
9月15日 ライセンスメイト『日曜討論特集』発行…77
9月19日 読売新聞による番組告知開始…78
9月20日 毎日新聞による番組告知開始…79
9月27日 産經新聞による番組告知開始…80
10月 1日 「日曜討論」全番組アーカイブをユーチューブにて公開…81
10月18日 西日本新聞による番組告知開始…82

平成27年（2015）

3月15日 第1回「日本人講座」特別講演会（松幸 55名）
※福岡縣護國神社参拝後…83
3月15日 第6回「支える会」新会員歓迎会（松幸 40名）…84
4月11日 朝日新聞による番組告知開始…85
5月 3日 「日本人講座」日曜討論番組に登場（ユーチューブ）…86
8月23日 第9回「支える会」定期総会・講演会・懇親会（テルラホール 93名）佐々木類先生（産經新聞 九州総局長）「第3次安倍政権と国際情勢の行方」…87
8月28日 産經新聞社西部本部と語る会（わが家白金 14名）…88
9月15日 ライセンスメイト『日曜討論特集』発行…89

平成28年（2016）

3月 5日 第2回「日本人講座」特別講演会（テルラホール 92名）我那覇真子先生（「琉球新報、沖縄タイムスを正す県民・国民の会」代表運営委員）「琉球新報・沖縄タイムスを正す－ウソ・捏造・世論操作を許さない」…90
3月 5日 第7回「支える会」新会員歓迎会（テルラホール 31名）…91
6月21日 産經新聞社西部本部と語る会（千羽鶴　22名）…92

『スタジオ日本 日曜討論番組を支える会』

皆様のご入会を心からお待ちしています

役員さんをご紹介します。

顧問	鬼木　誠	衆議院議員
顧問	中山恭子	参議院議員
顧問	西川京子	前衆議院議員
顧問	山本泰藏	日本会議福岡理事長
顧問	多久善郎	日本協議会理事長
顧問	北村弥枝	教育研究会未来理事長
顧問	小山和伸	神奈川大学経済学部教授
相談役	松俵義博	松俵建設(株)会長
相談役	関　文彦	(株)関家具代表取締役
相談役	角　洋一郎	九栄会会長
相談役	富原　浩	(株)中部鋼材代表取締役
相談役	高島照彦	(株)リライエステート代表取締役社長
代表世話人	小菅亥三郎	(専)ライセンスカレッジ理事長
副代表世話人	香月洋一	(医)香月内科医院理事長
世話人	田中道夫	(株)ハウジングアーキテクチャーCEO
世話人	施　光恒	九州大学大学院准教授
世話人	木村秀人	元高等学校教諭
世話人	矢ヶ部大輔	福岡教育連盟執行委員長
世話人	川口武壽	直方食糧販売(株)代表取締役社長
世話人	安倍輝彦	(財)北九州上下水道協会非常勤理事
世話人	吉田重治	元独立行政法人産業技術総合研究所招聘研究参与
世話人	原田泰宏	九州伝承遺産ネットワーク特別顧問
世話人	津留　毅	広告代理店勤務
世話人	梶栗勝敏	日本会議福岡事務局長
世話人	柴崎一郎	岩屋城址の会代表
世話人	髙橋幸久	建設会社勤務
営業	井上久美子	(株)日本教育開発
営業	中村那津子	(株)日本教育開発
会計	茅野輝章	(株)日本教育開発
監事	日隈精二	染呉服ますや店主

〔順不同〕

会則をご覧下さい。

第１条（名称）
本会は「スタジオ日本『日曜討論』番組（以下「番組」と称す）を支える会」と称する。

第２条（事務局）
本会の事務局は福岡市中央区天神1-3-38に置く。

第３条（目的）
本会は①「誇りある国づくり」のための番組の継続。
②番組の放送主体であるスタジオ日本（以下「スタジオ」と称す）の後援。
③出演者（制作者含む）相互の研鑽及び親睦をその目的とする。

第４条（会員）
本会の会員は次の３種とする。
①特別会員　本会の目的に賛同し、本会の事務局を支援するため、入会金、賛助金1口以上を納める法人又は個人。
②正会員　本会の目的に賛同し、入会金、年会費を納める者。
③番組会員　本会の目的に賛同し、番組成立のため協力でき、入会金、年会費を納める者。

第５条（入会）
本会に入会を希望する者は所定の申込手続により、入会することができる。

第６条（会費）
本会の経費は入会金、賛助金、会費、寄付金をもってこれに充当する。
①会員として入会を希望する者は、入会金として1,000円を入会と同時に納入する。
②特別会員の賛助金（1口）は法人120,000円、個人10,000円とし、入会と同時に納入し、次年度以降は3月末日迄に納入する。
③正会員の会費は年額5,000円とし、3月末日迄に翌年度の1年分を一括して納入する。
④番組会員の会費は年額3,000円とし、3月末日迄に翌年度の1年分を一括して納入する。

第７条（会計年度）
本会の会計年度は毎年4月1日より翌年3月31日迄とする。

第８条（役員）
本会に次の役員を置く。

顧問	若干名	有識者他。
相談役	若干名	有識者他。
代表世話人	１名	会を代表し、会務を統括。
副代表世話人	１名	代表世話人を補佐し、番組を企画。
世話人	若干名	代表世話人の命を受けて、会務を処理。
営業	１名	会員募集。
会計	１名	会計事務処理。
監事	１名	会計監査。

第９条（役員の任期）
役員の任期は1年とし、再任を妨げない。

第10条（役員の選任）
①世話人は会員のうちから、代表世話人、副代表世話人は世話人のうちからそれぞれ役員会において選任する。
②営業は会員募集、会計は会務処理を行う。

第11条（役員会）
役員会は代表世話人が必要に応じ招集する。

第12条（総会）
総会は原則として毎年8月にスタジオとの調整をとり開催することとし、代表世話人及び役員会において必要と認めたときには、臨時総会を開催することができる。

第13条（総会の構成及び議決）
総会は会員の出席をもって成立し、議事については出席会員の過半数の賛成で議決する。

好評配信中！
（毎週日曜日10:00～12:30）

インターネット生放送番組

スタジオ日本「日曜討論」の視聴方法

番組は、インターネットで「スタジオ日本　日曜討論」と検索して、
番組ホームページ（http://touron.l-mate.net）からご覧いただけます。

「いいね！」ボタン、チャンネル登録をお願いします。

いいね！　チャンネル登録

スタジオ日本 日曜討論番組を支える会にご入会下さい。

平成15年10月の放送開始以来、この番組に出演されたリスナーの皆様を中心に設立されたのが「スタジオ日本 日曜討論番組を支える会」です。当会では、この番組に協力していただける新会員を広く募集しております。入会ご希望の方は当会事務局までお気軽にご連絡ください。詳しい案内資料をお送りいたします。

季刊誌ライセンスメイトによる特集
番組の発展と支援の輪を拡げてきた毎年毎年の集大成作業

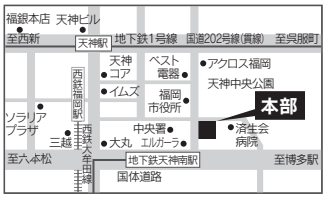
『スタジオ日本 日曜討論番組を支える会』の皆様に毎月送られる「かわら版」と出演者に送られるCD

【スタジオ日本 日曜討論番組を支える会　会費区分】

☆特別法人会員　120,000円
☆特別個人会員　10,000円
☆正会員　5,000円
☆番組会員　3,000円

※いずれも年会費で、別途入会金1,000円が必要です。

あなたのご支援が世論をつくります！



スタジオ日本
日曜討論番組を支える会

●事務局　福岡市中央区天神1-3-38

TEL(092)721-0101

FAX (092)725-3190

URL　http://touron.l-mate.net

Eメール　touron@l-mate.net

昭和36年11月6日　第三種郵便物認可

ライセンスメイト秋号(第1巻244号通巻570号)

平成28年9月15日発行(年4回発行)

発行所　株式会社 日本教育開発　〒810－0001福岡市中央区天神1－3－38

定価772円　本体価格715円

還付先 〒810－0001 福岡市中央区天神1－3－38／「ライセンスメイト」読者サービス係